

資料1 第5期士別市地域福祉計画策定のためのアンケート調査結果

【1】調査概要

（1）調査の目的

市民の生活状況や福祉に対するご意見等を把握し、「第5期士別市地域福祉計画」の策定に向けた基礎資料とするものです。

（2）調査の対象

16歳以上の市民1,500人を対象に実施しました。

（3）調査期間

令和5（2023）年12月

（4）調査方法

郵送による配布・回収により実施（無記名回答）

（5）回収結果

有効回収数635件（有効回収率：42.3%）

（6）集計結果の標記方法

- ・nは、質問に対する無回答を含む集計対象総数で割合算出の基準です。
- ・割合は、nに対する各回答数の百分率（%）です。小数点以下第2位を四捨五入し、小数点第1位まで表記し、1人の回答者が1つの回答をする設問では、100.0%とならない場合があります。
- ・1人の回答者が2つ以上の回答をすることができる設問は、各選択肢の割合の合計は100.0%を超えています。
- ・クロス集計表の表側（分類層）は、無回答を除いているため、各層の実数と集計対象総数が一致しない場合があります。
- ・グラフや表の選択肢（カテゴリー）は、文字数の制約のため、簡略して表記している場合があります。

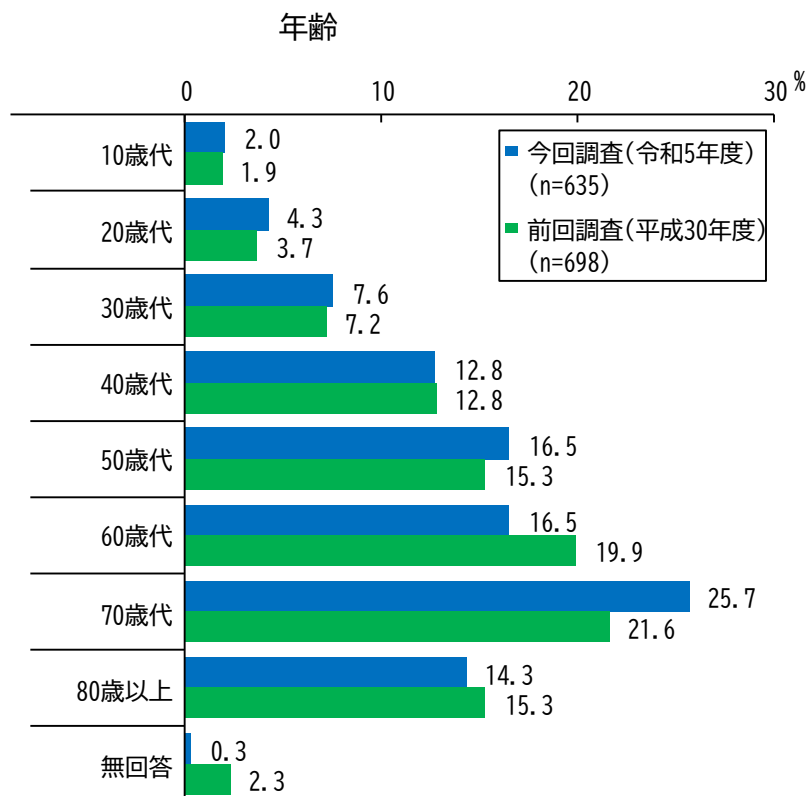
【2】調査結果

(1) 回答属性

問1 あなたの年齢はおいくつですか。(1つに○)

年齢は、「70歳代」が最も多く25.7%、次いで「50歳代」及び「60歳代」がいずれも16.5%、「80歳以上」が14.3%となっています。

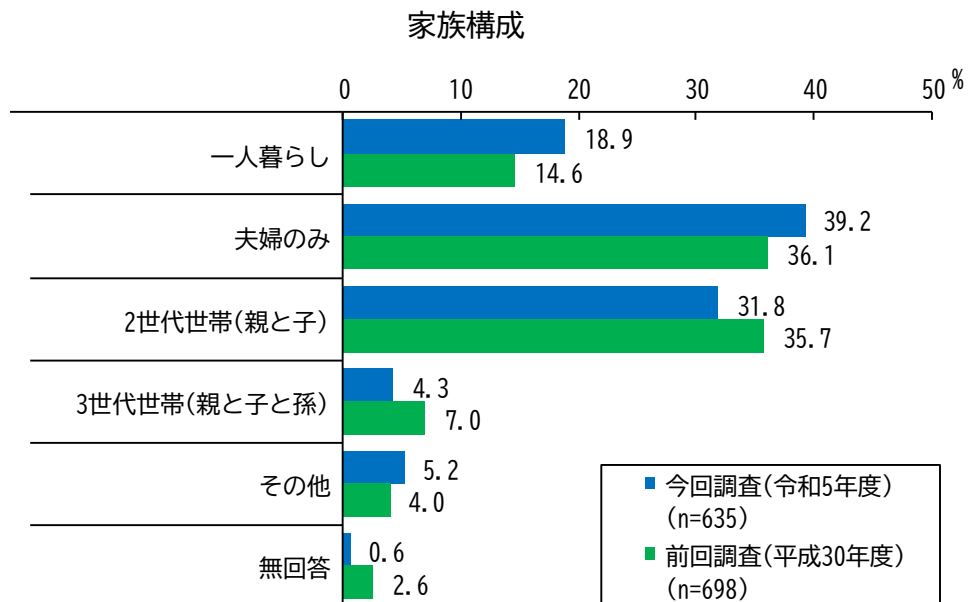
今回調査(令和5年度)は、前回調査(平成30年度)と比較すると、「10歳代」、「20歳代」、「30歳代」、「50歳代」、「70歳代」の割合が増えています。



問2 現在の家族構成についてお答えください。(1つに○)

家族構成は、「夫婦のみ」が最も多く 39.2%、次いで「2 世代世帯」が 31.8%、「一人暮らし」が 18.9%となっています。

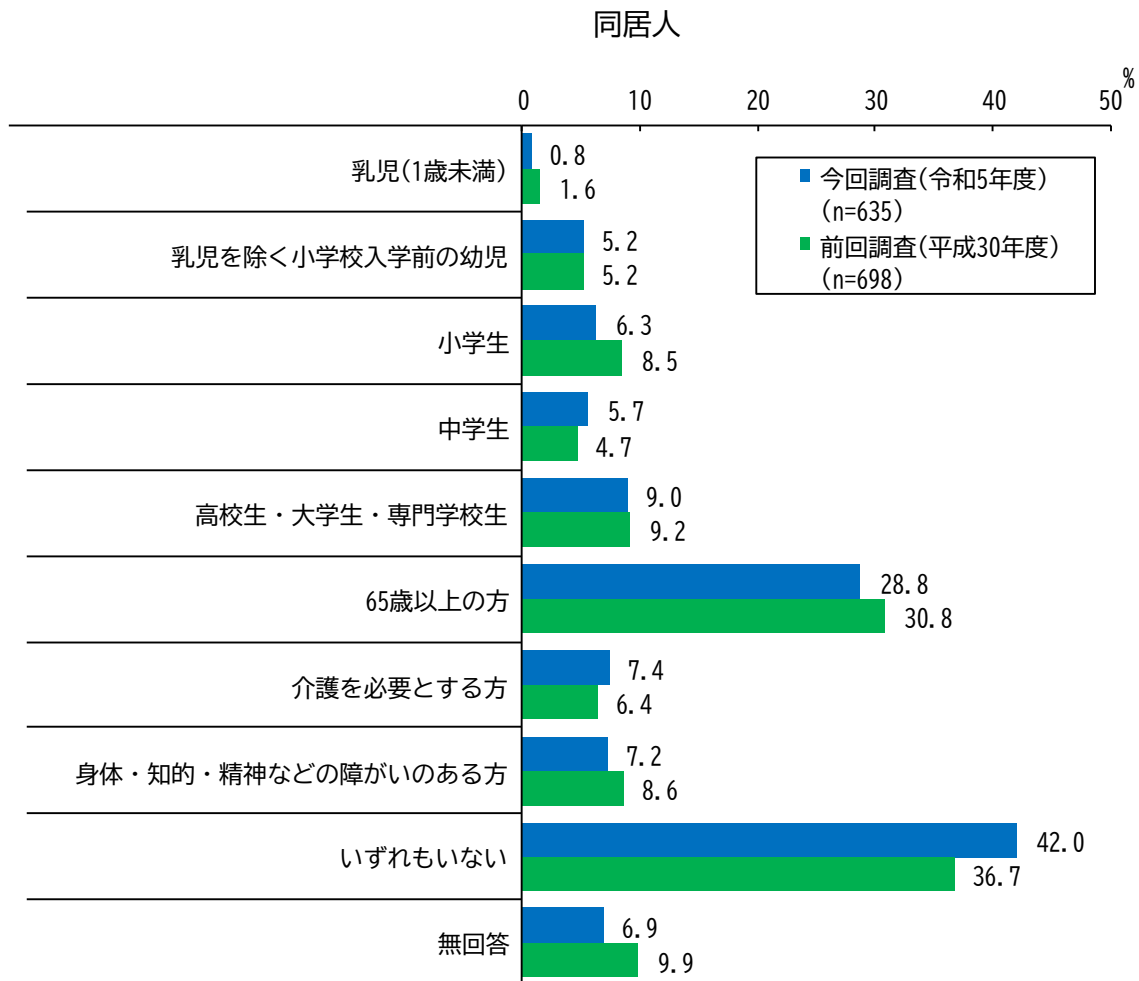
今回調査(令和 5 年度)は、前回調査(平成 30 年度)と比較すると、「一人暮らし」、「夫婦のみ」、「その他」の割合が増えています。



問3 現在、あなた自身、もしくはあなたが同居している家族の中に、次の方はいますか。
(〇はいくつでも)

同居人は、「いずれもない」が最も多く 42.0%、次いで「65 歳以上の方」が 28.8%、「高校生・大学生・専門学校生」が 9.0%となっています。

今回調査(令和 5 年度)は、前回調査(平成 30 年度)と比較すると、「中学生」、「介護を必要とする方」、「いずれもない」の割合が増えています。

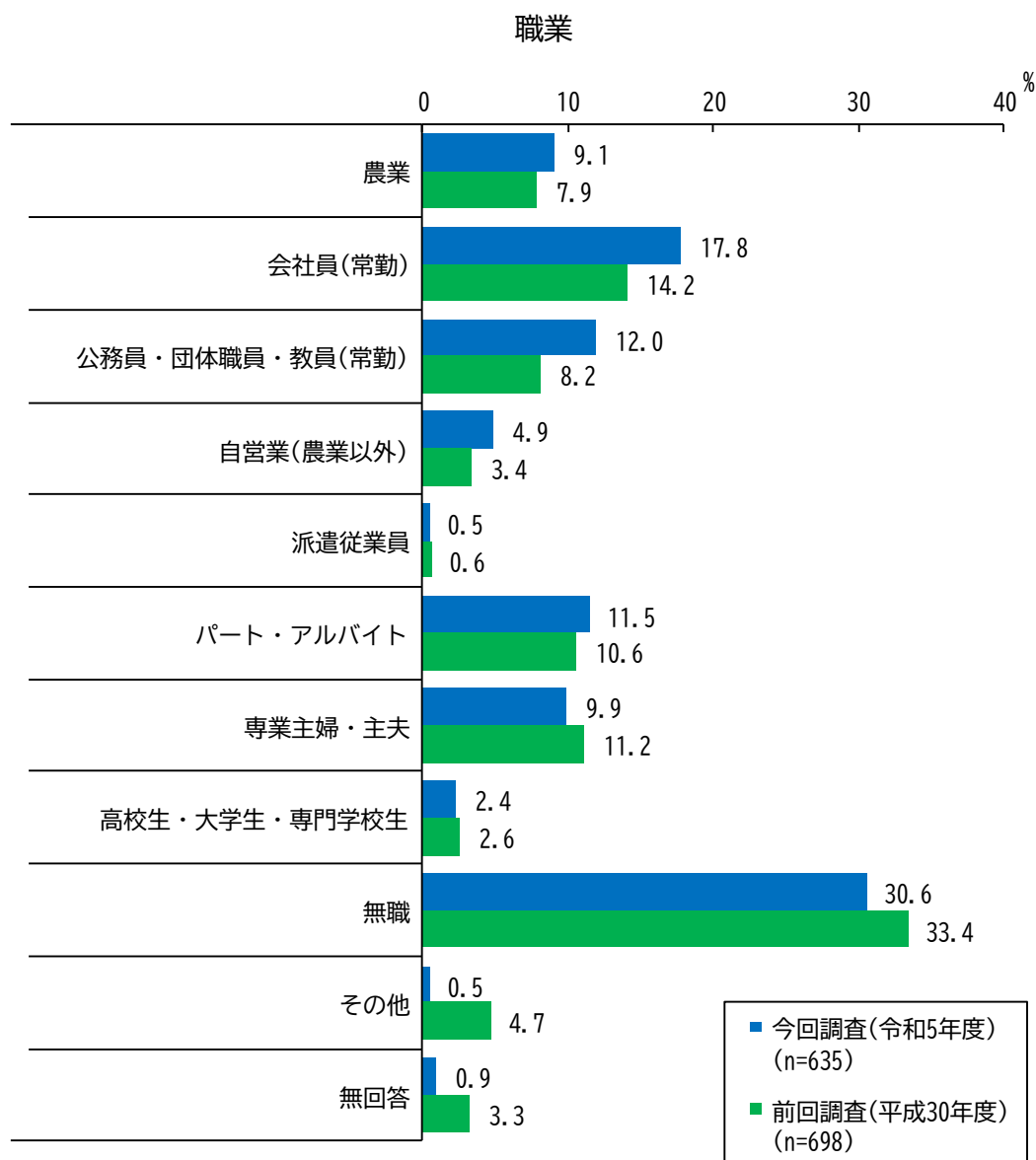


問4 あなたの職業は何ですか。兼業等の場合は主なもの1つをお答えください。

(1つに○)

職業は、「無職」が最も多く 30.6%、次いで「会社員（常勤）」が 17.8%、「公務員・団体職員・教員（常勤）」が 12.0%となっています。

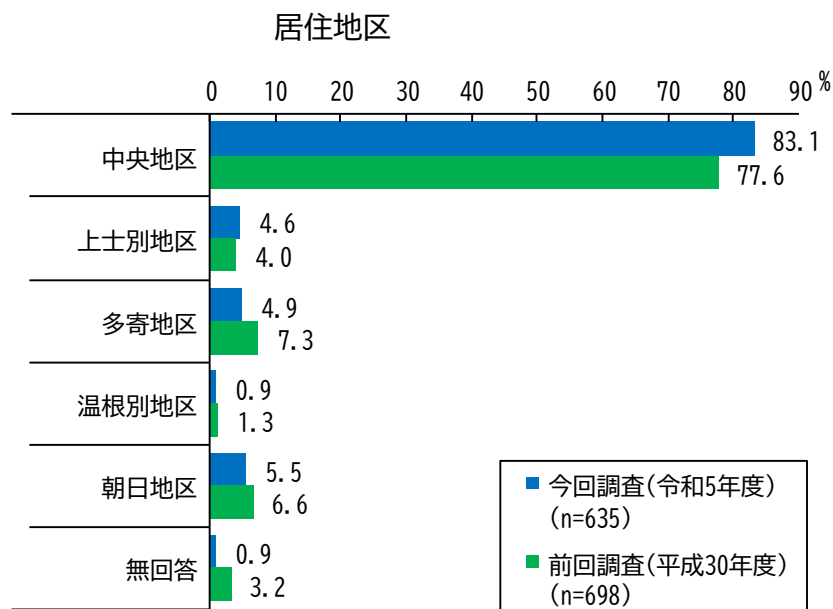
今回調査(令和5年度)は、前回調査(平成30年度)と比較すると、「農業」、「会社員（常勤）」、「公務員・団体職員・教員（常勤）」、「自営業（農業以外）」、「パート・アルバイト」の割合が増えています。



問5 お住まいの地区はどちらですか。(1つに○)

居住地区は、「中央地区」が最も多く 83.1%、次いで「朝日地区」が 5.5%、「多寄地区」が 4.9% となっています。

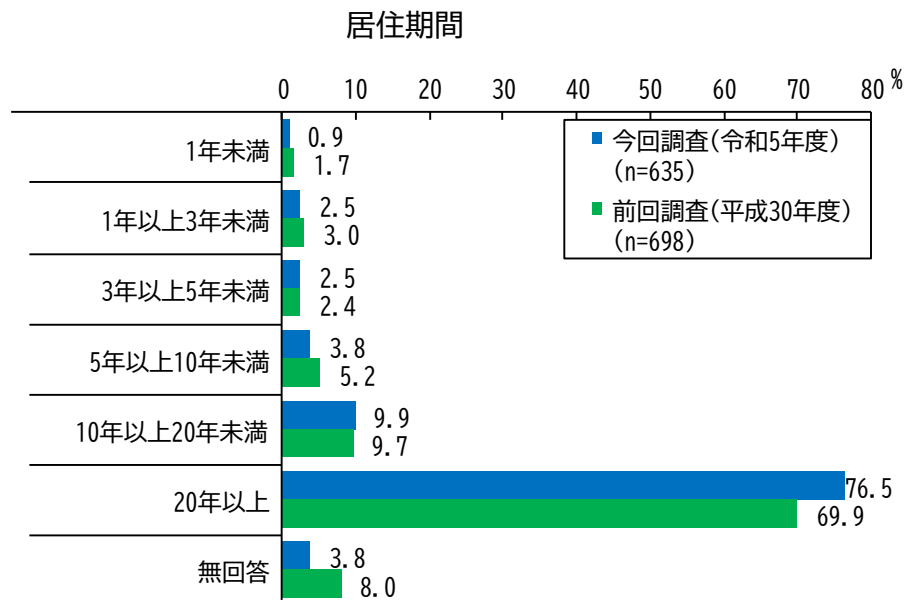
今回調査(令和5年度)は、前回調査(平成30年度)と比較すると、「中央地区」、「上士別地区」の割合が増えています。



問6 士別市に住んで(一度離れた場合は、その期間を除いて)何年になりますか。(1つに○)

居住期間は、「20年以上」が最も多く76.5%、次いで「10年以上20年未満」が9.9%、「5年以上10年未満」が3.8%となっています。

今回調査(令和5年度)は、前回調査(平成30年度)と比較すると、「3年以上5年未満」、「10年以上20年未満」、「20年以上」の割合が増えています。

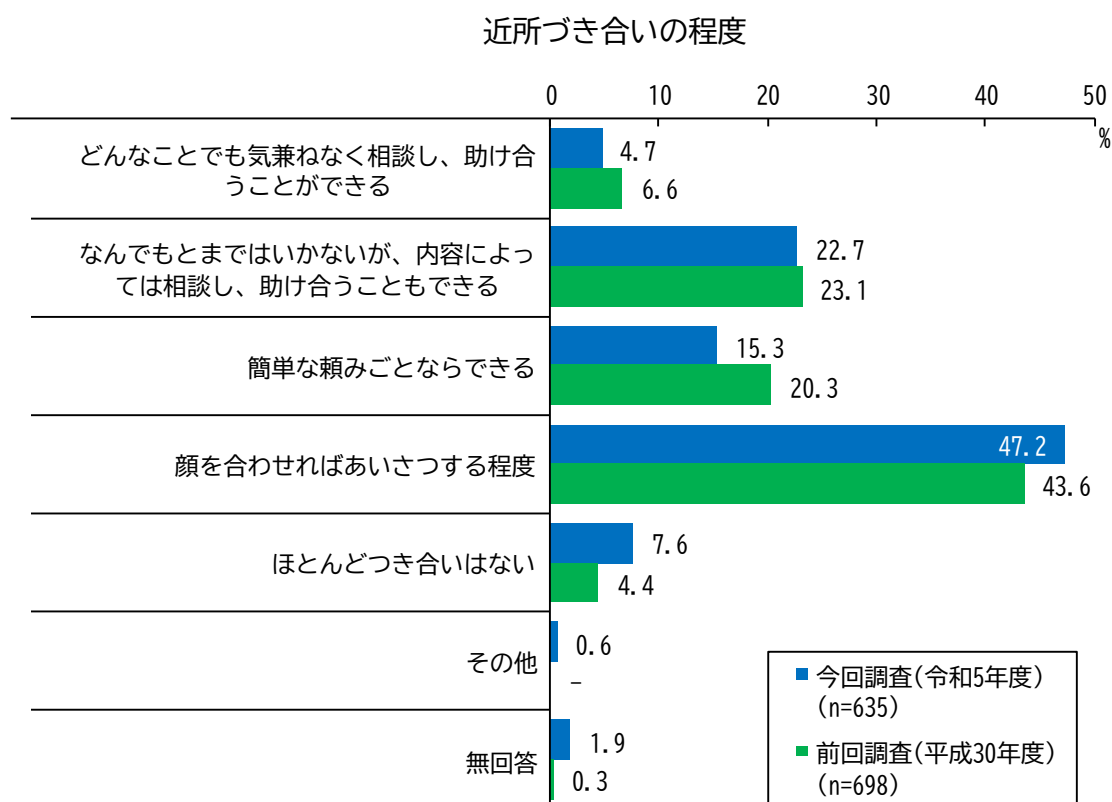


(2) 地域のつき合いやつながりについて

問7 あなたは、ふだん近所の人と、どの程度のつき合いをしていますか。(1つに○)

近所づき合いの程度は、「顔を合わせればあいさつ程度」が最も多く 47.2%、次いで「なんでもとまではいかないが内容によっては相談し、助け合うこともできる」が 22.7%、「簡単な頼みごとならできる」が 15.3%となっています。

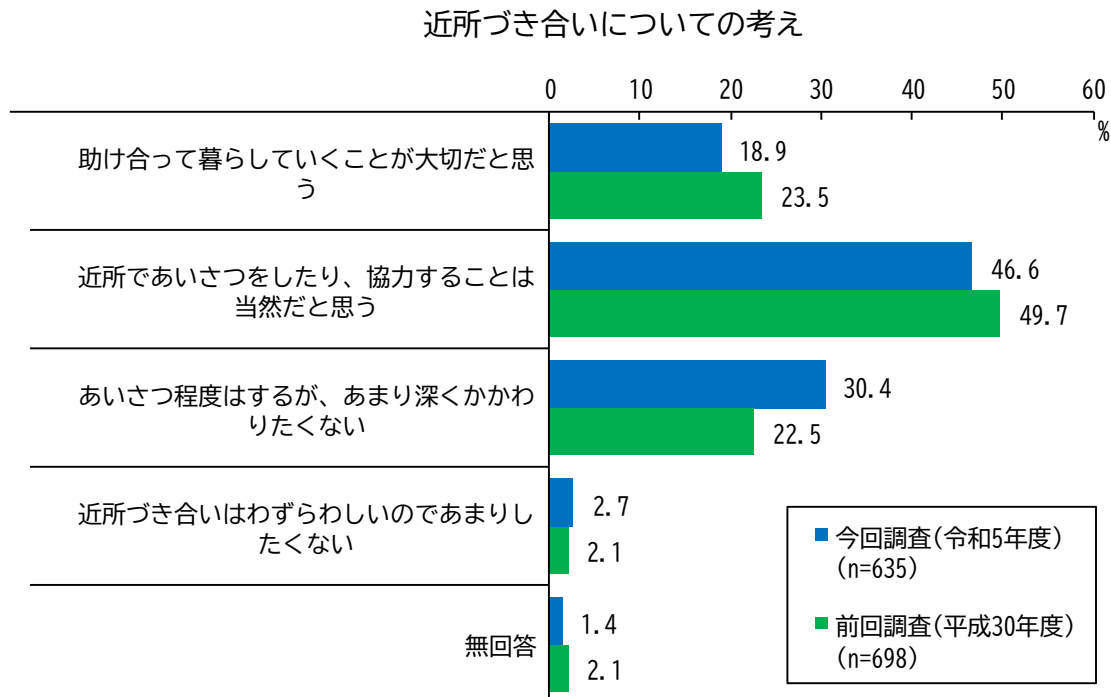
今回調査(令和5年度)は、前回調査(平成30年度)と比較すると、「顔を合わせればあいさつ程度」、「ほとんどつき合いはない」、「その他」の割合が増えています。



問8 あなたは、近所づき合いについてどのようにお考えですか（1つに○）

近所づき合いについての考えは、「近所であいさつしたり、協力することは当然だと思う」が最も多く 46.6%、次いで「あいさつ程度はするが、あまり深くかかわりたくない」が 30.4%「助け合って暮らしていくことが大切だと思う」が 18.9%となっています。

今回調査(令和5年度)は、前回調査(平成30年度)と比較すると、「あいさつ程度はするが、あまり深くかかわりたくない」、「近所づき合いはわずらわしいのであまりしたくない」の割合が増えています。

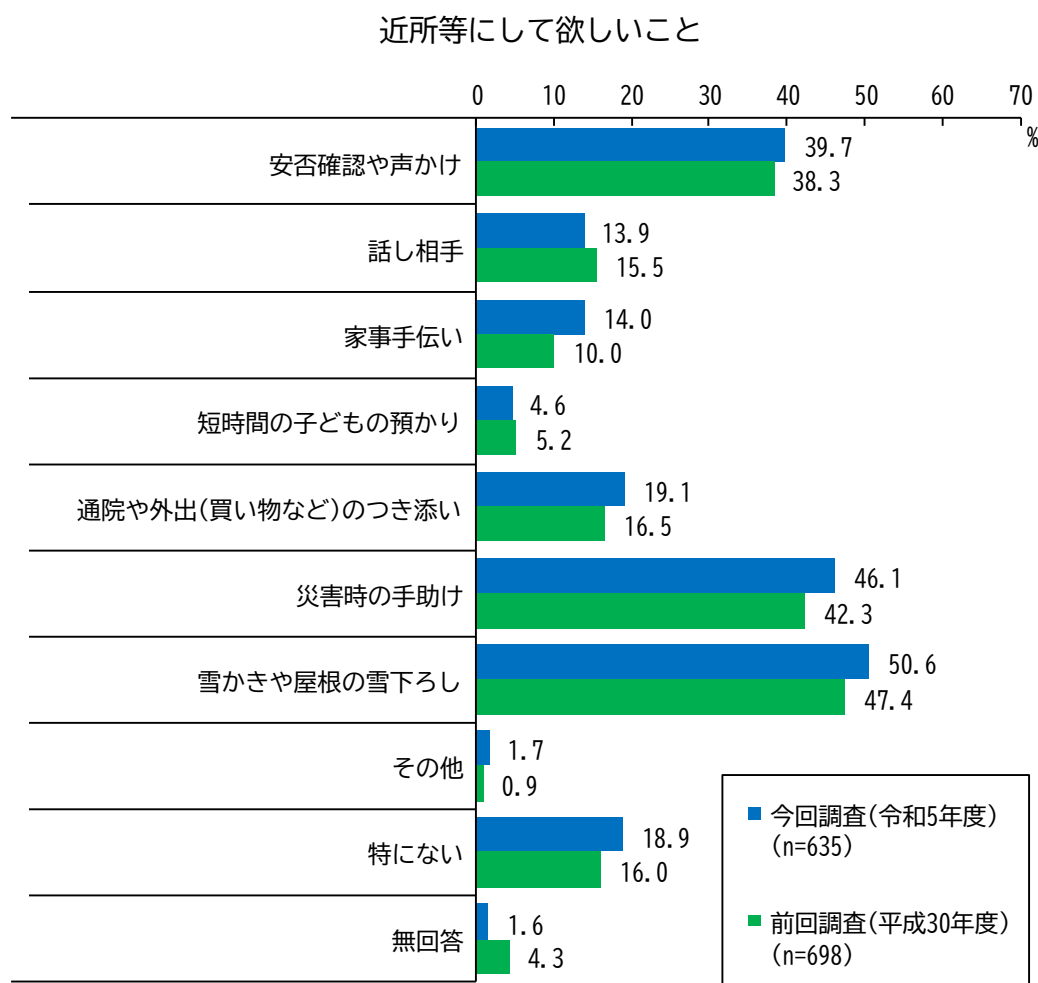


問9 あなたやご家族の日常生活が不自由になった時、近所や地域、市役所に何をして欲しいですか。また、近所で困っている人に、あなたができることは何ですか。

(○はいくつでも)

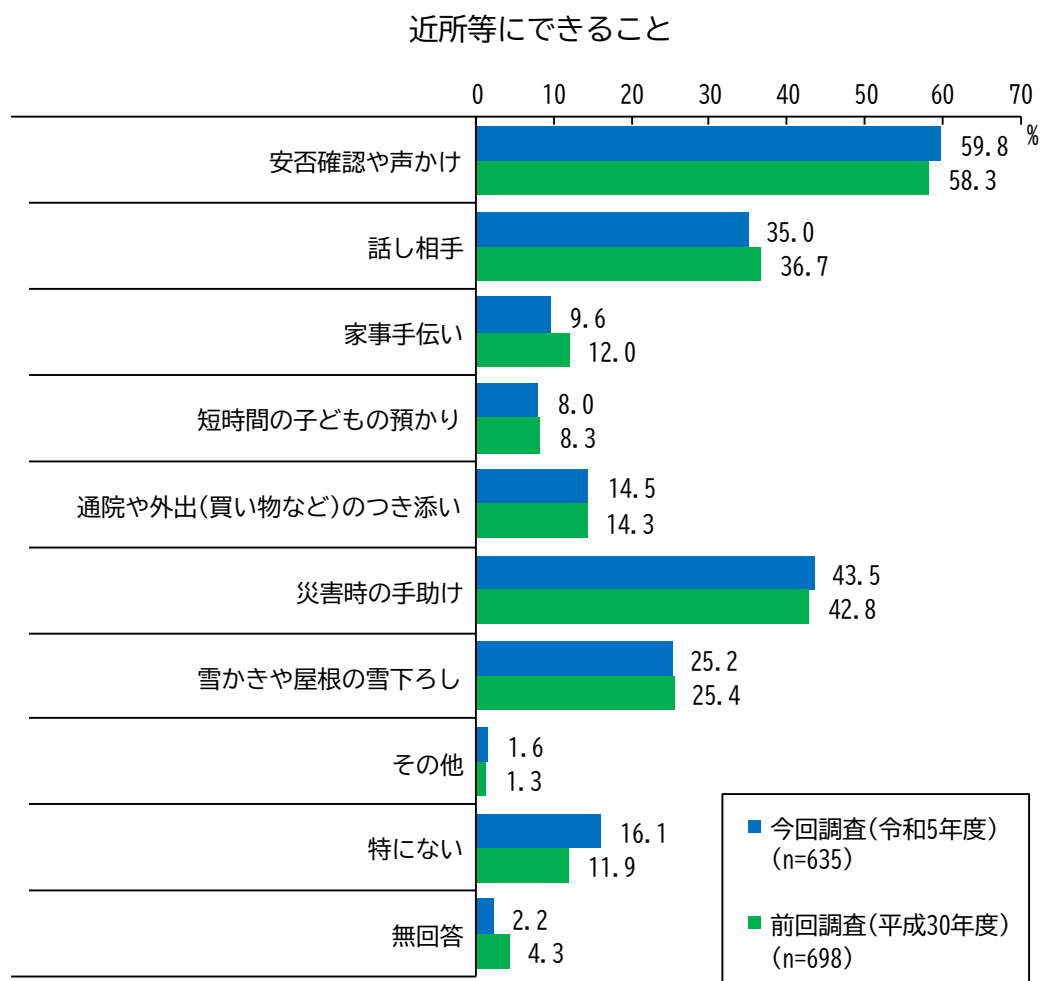
近所等に（あなたが）して欲しいことは、「雪かきや屋根の雪下ろし」が最も多く 50.6%、次いで「災害時の手助け」が 46.1%、「安否確認や声かけ」が 39.7%となっています。

今回調査(令和5年度)は、前回調査(平成30年度)と比較すると、「安否確認や声かけ」、「家事手伝い」、「通院や外出（買い物など）のつき添い」、「災害時の手助け」、「雪かきや屋根の雪下ろし」、「その他」、「特にない」の割合が増えています。



近所等に（あなたが）できることは、「安否確認や声かけ」が最も多く 59.8%、次いで「災害時の手助け」が 43.5%、「話し相手」が 35.0%となっています。

今回調査(令和 5 年度)は、前回調査(平成 30 年度)と比較すると、「安否確認や声かけ」、「通院や外出（買い物など）のつき添い」、「災害時の手助け」、「特にない」の割合が増えています。

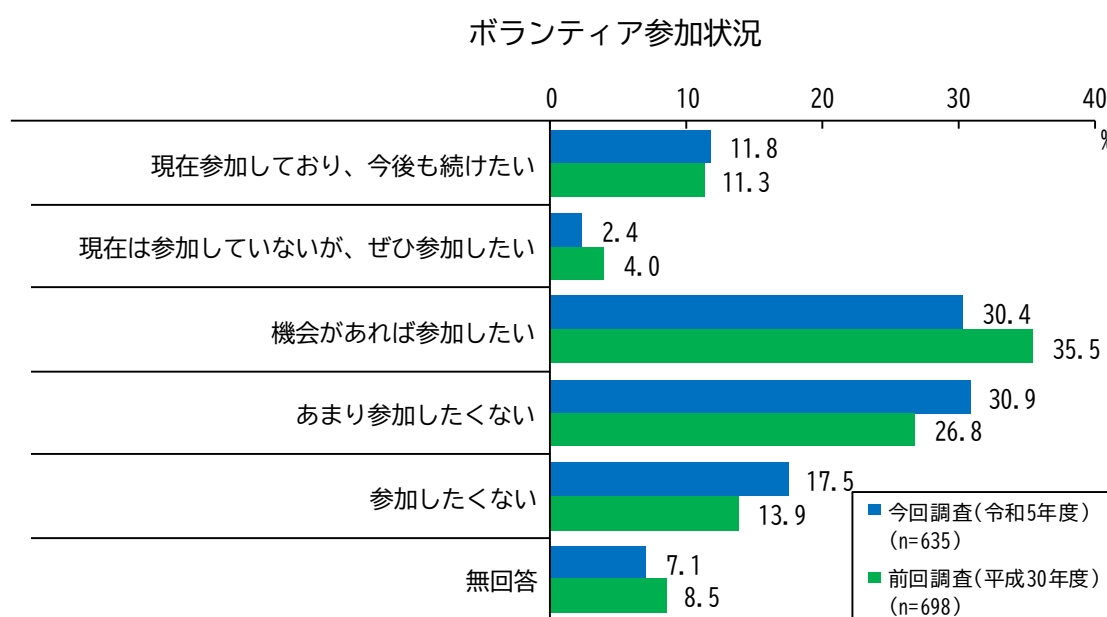


(3) ボランティアや地域活動について

問 10 あなたは、ボランティアや地域活動に参加していますか。または、参加したいと思いますか。(1つに○)

ボランティア参加状況は、「あまり参加したくない」が最も多く 30.9%「機会があれば参加したい」が 30.4%、「参加したくない」が 17.5%、となっています。

今回調査(令和5年度)は、前回調査(平成30年度)と比較すると、「現在参加しており、今後も続けたい」、「あまり参加したくない」、「参加したくない」の割合が増えています。



問 10 で「参加している」または「参加したい」とお答えの方にお聞きます。

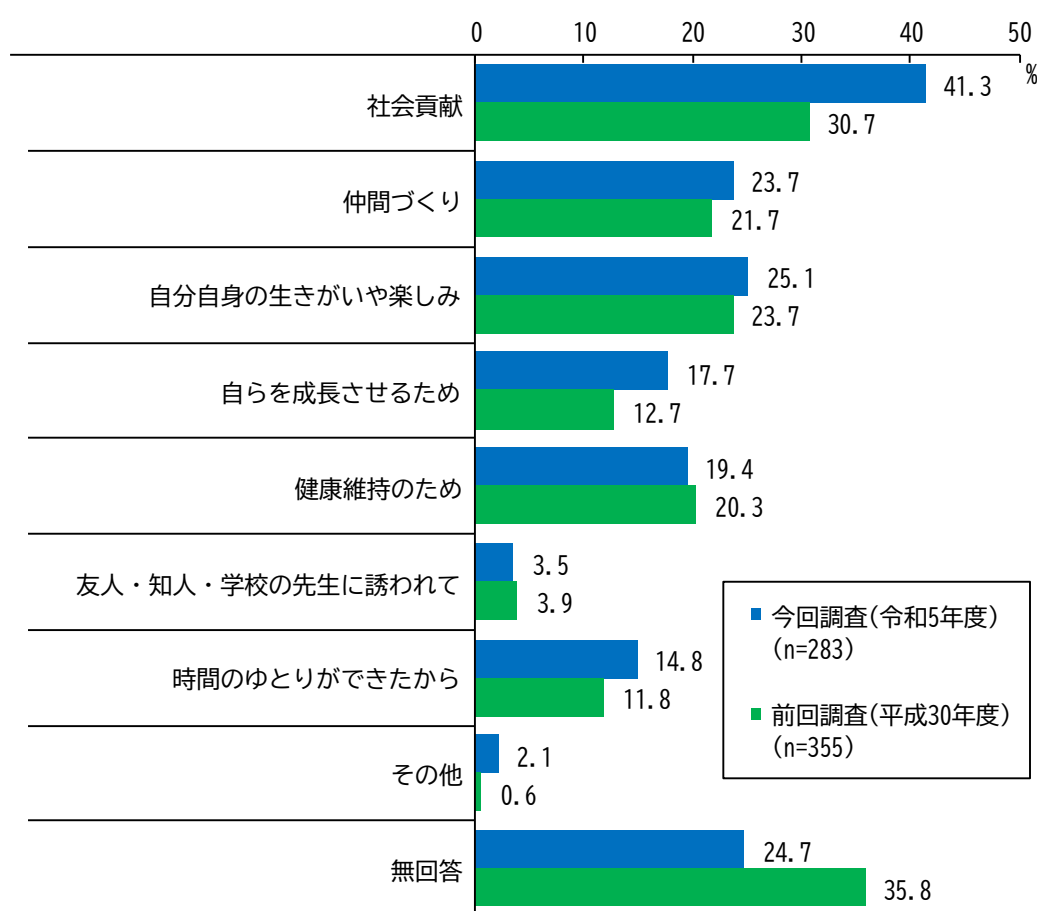
問 10 (1) 参加しているまたは参加したいと思う目的・理由は何ですか。

(○はいくつでも)

参加しているまたは参加したいと思う目的・理由は、「社会貢献」が最も多く 41.3%、次いで「自分自身の生きがいや楽しみ」が 25.1%、「仲間づくり」が 23.7%となっています。

今回調査(令和 5 年度)は、前回調査(平成 30 年度)と比較すると、「社会貢献」、「仲間づくり」、「自分自身の生きがいや楽しみ」、「自らを成長させるため」、「時間のゆとりができたから」、「その他」の割合が増えています。

参加しているまたは参加したいと思う目的・理由



問 10 で「参加している」または「参加したい」とお答えの方にお聞きます。

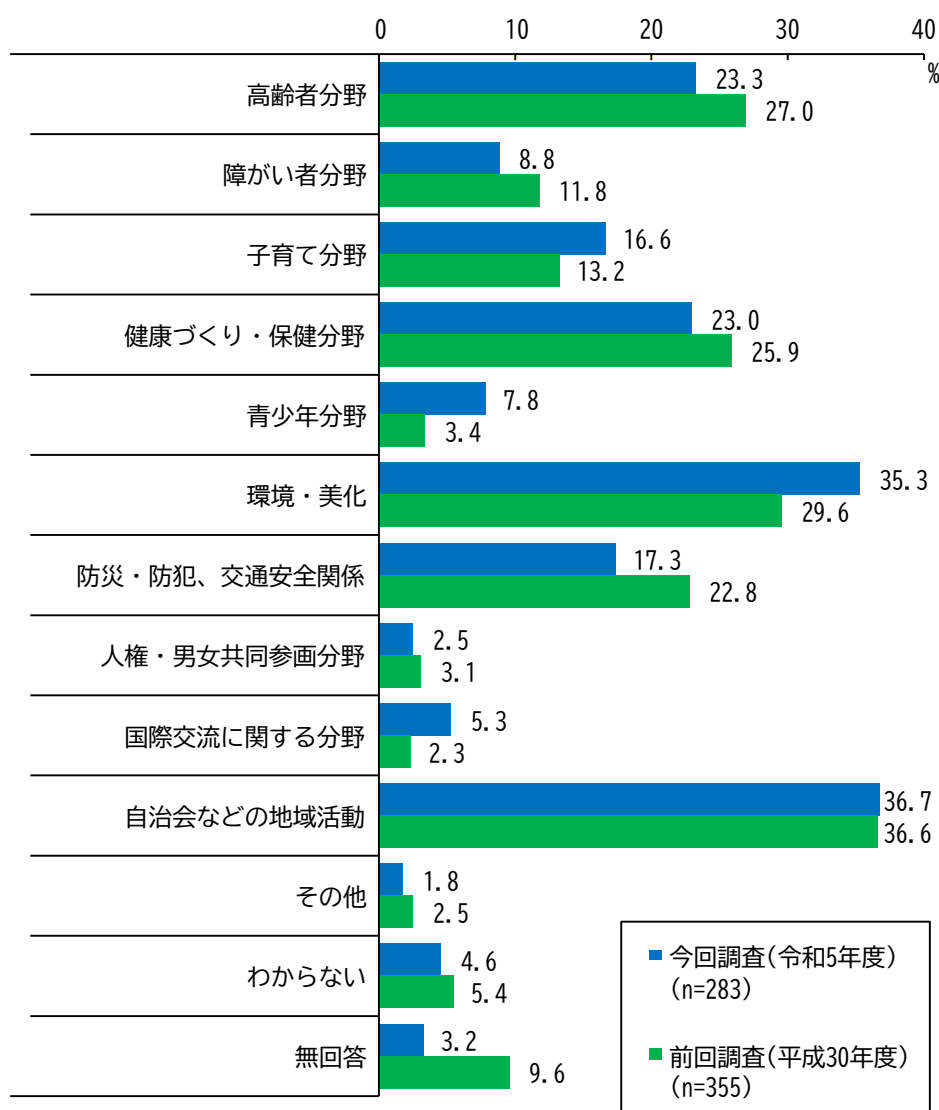
問 10 (2) 参加したい（続けたい）ボランティアや地域活動は次のどの分野ですか。

(〇はいくつでも)

参加したい（続けたい）ボランティアや地域活動は、「自治会などの地域活動」が最も多く 36.7%、次いで「環境・美化」が 35.3%、「高齢者分野」が 23.3%となっています。

今回調査(令和 5 年度)は、前回調査(平成 30 年度)と比較すると、「子育て分野」、「青少年分野」、「環境・美化」、「国際交流に関する分野」、「自治会などの地域活動」の割合が増えています。

参加したい（続けたい）ボランティアや地域活動

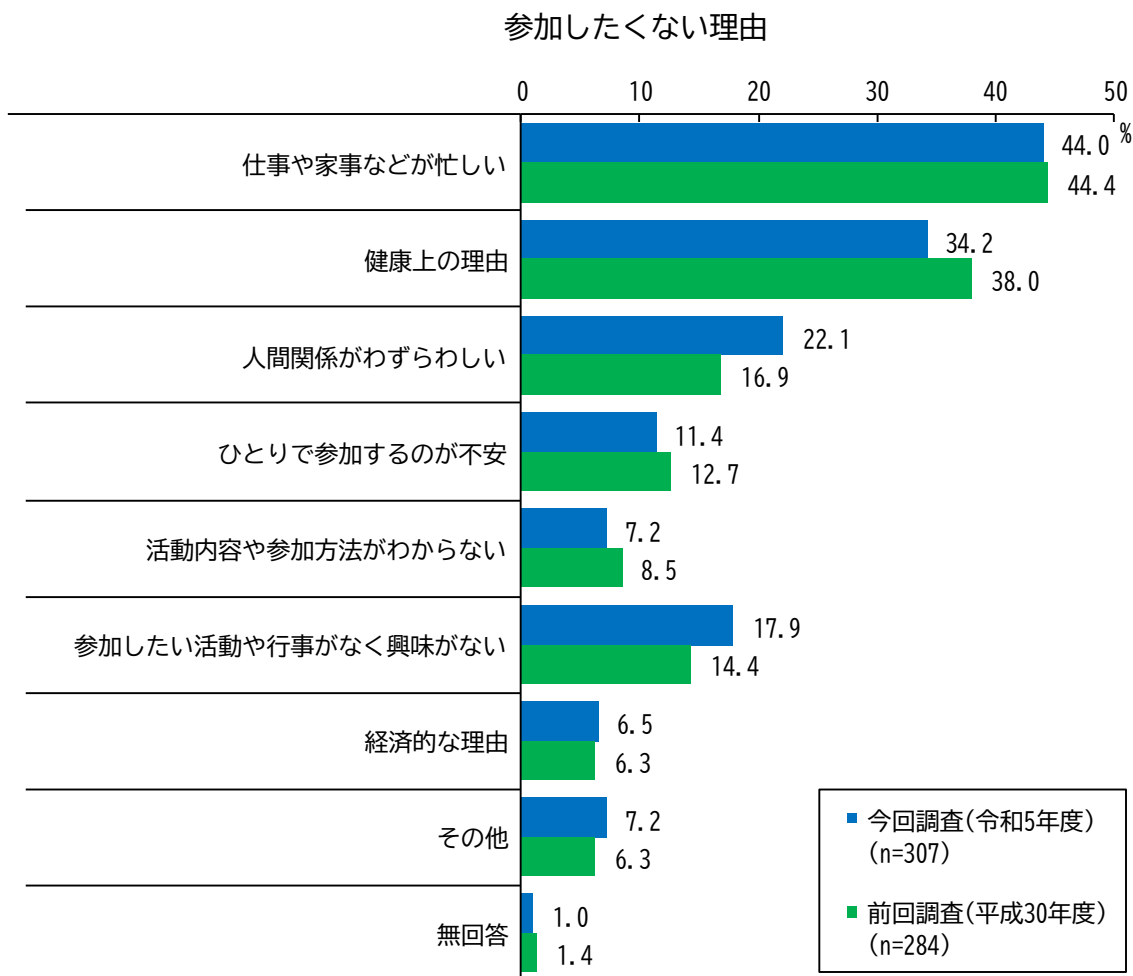


問 10 で「参加したくない」とお答えの方にお聞きします。

問 10 (3) 参加したくないのはどのような理由からですか。(〇はいくつでも)

参加したくない理由は、「仕事や家事などが忙しい」が最も多く 44.0%、次いで「健康上の理由」が 34.2%、「人間関係がわずらわしい」が 22.1%となっています。

今回調査(令和 5 年度)は、前回調査(平成 30 年度)と比較すると、「人間関係がわずらわしい」、「参加したい活動や行事がなく興味がない」、「経済的な理由」、「その他」の割合が増えています。



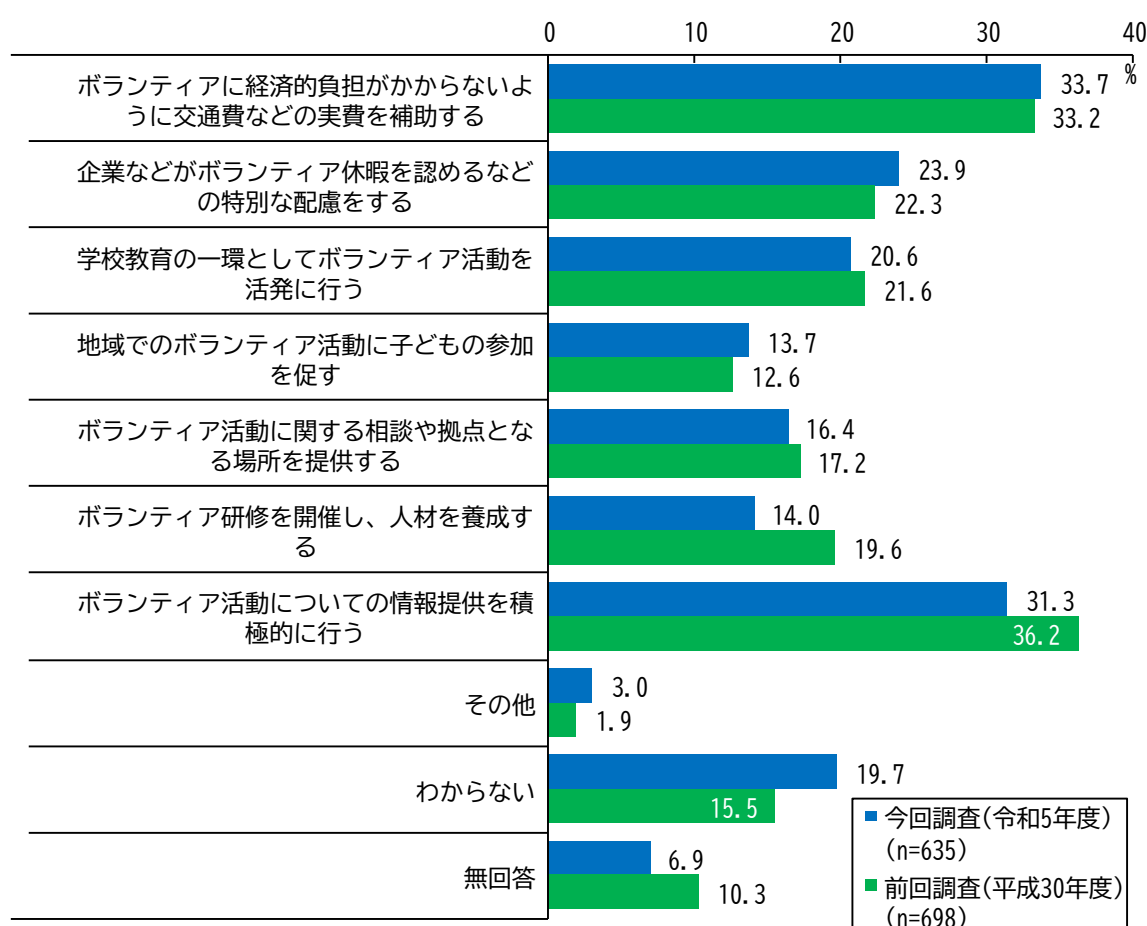
問 11 ボランティア活動や地域活動を活発にしていくためには何が必要だと思いますか。

(〇は3つまで)

ボランティア活動や地域活動を活発にしていくために必要なことは、「ボランティアに経済的負担がかからないように交通費などの実費を補助する」が最も多く 33.7%、次いで「ボランティア活動についての情報提供を積極的に行う」が 31.3%、「企業などがボランティア休暇を認めるなどの特別な配慮をする」が 23.9%となっています。

今回調査(令和5年度)は、前回調査(平成30年度)と比較すると、「ボランティアに経済的負担がかからないように交通費などの実費を補助する」、「企業などがボランティア休暇を認めるなどの特別な配慮をする」、「地域でのボランティア活動に子どもの参加を促す」、「その他」、「わからない」の割合が増えています。

ボランティア活動や地域活動を活発にしていくために必要なこと

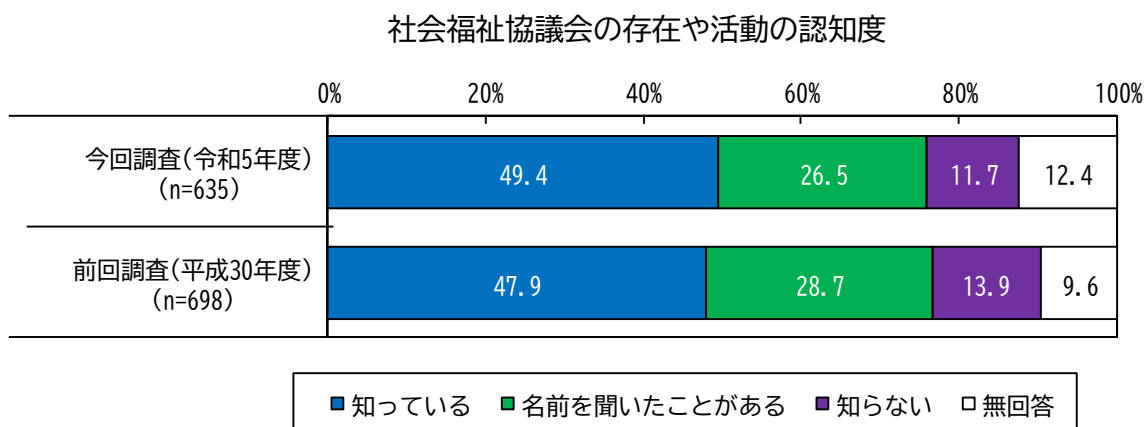


（４）社会福祉協議会や民生委員・児童委員について

問 12 社会福祉協議会の存在や活動を知っていますか。（１つに○）

社会福祉協議会の存在や活動の認知度は、「知っている」が最も多く 49.4%、次いで「名前を聞いたことがある」が 26.5%、「知らない」が 11.7%となっています。

今回調査(令和 5 年度)は、前回調査(平成 30 年度)と比較すると、「知っている」の割合が増えています。



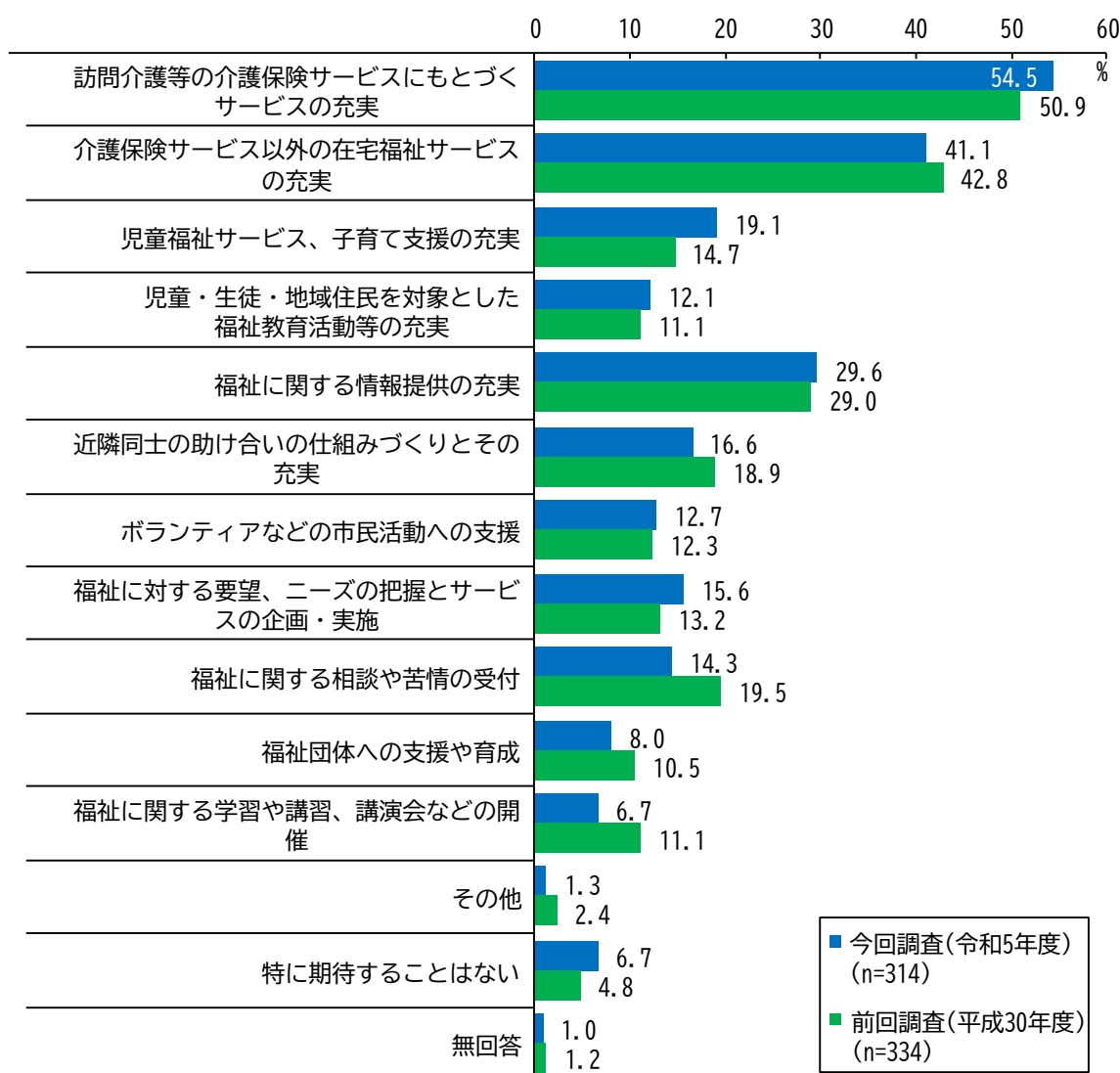
問 12 で「知っている」とお答えの方にお聞きします。

問 12 (1) あなたは、社会福祉協議会にどのようなことを期待しますか。(○は3つまで)

社会福祉協議会への期待は、「訪問介護等の介護保険サービスにもとづくサービスの充実」が最も多く 54.5%、次いで「介護保険サービス以外の在宅福祉サービスの充実」が 41.1%、「福祉に関する情報提供の充実」が 29.6%となっています。

今回調査(令和5年度)は、前回調査(平成30年度)と比較すると、「訪問介護等の介護保険サービスにもとづくサービスの充実」、「児童福祉サービス、子育て支援の充実」、「児童・生徒・地域住民を対象とした福祉教育活動等の充実」、「福祉に関する情報提供の充実」、「ボランティアなどの市民活動への支援」、「福祉に対する要望、ニーズの把握とサービスの企画・実施」、「特に期待することはない」の割合が増えています。

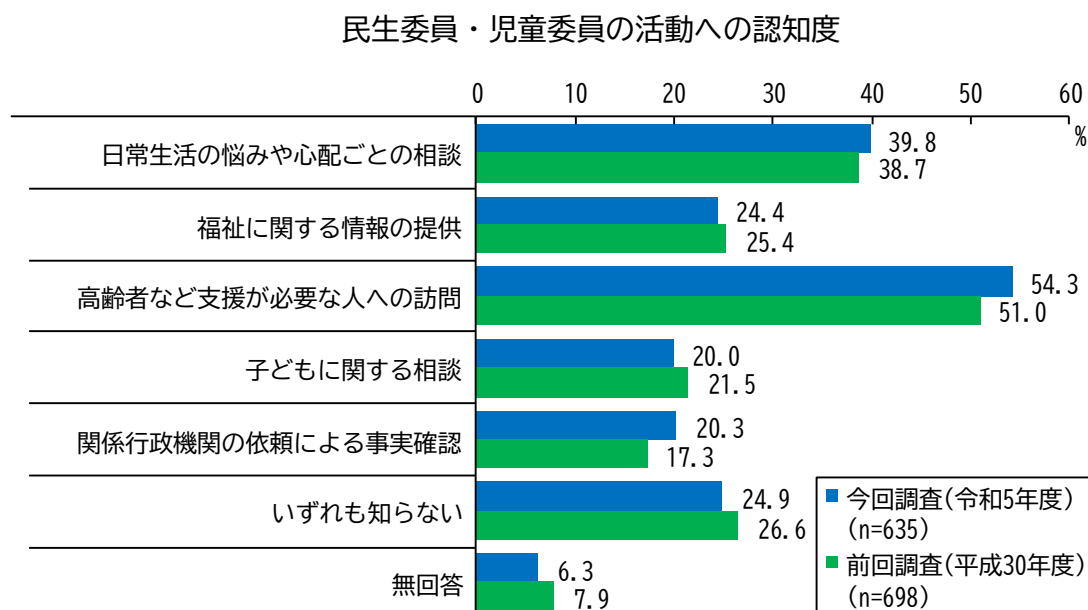
社会福祉協議会への期待



問 13 民生委員・児童委員が、地域福祉に関する次の活動を行っていることを知っていますか。
(〇はいくつでも)

民生委員・児童委員の活動への認知度は、「高齢者などの支援が必要な人への訪問」が最も多く54.3%、次いで「日常生活の悩みや心配ごとの相談」が39.8%、「いずれも知らない」が24.9%となっています。

今回調査(令和5年度)は、前回調査(平成30年度)と比較すると、「日常生活の悩みや心配ごとの相談」、「高齢者などの支援が必要な人への訪問」、「関係行政機関の依頼による事実確認」の割合が増えています。

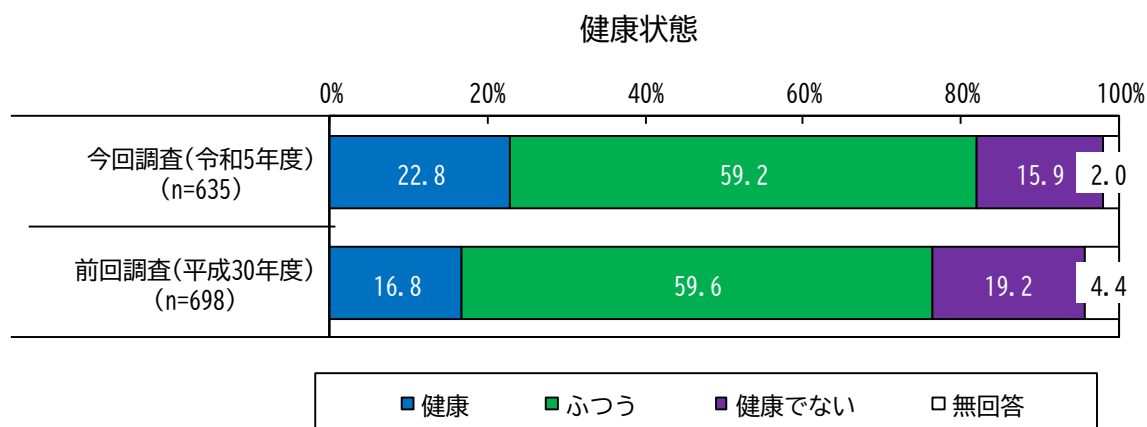


（５）健康や福祉に関する相談・情報について

問 14 あなたは、現在の自分の健康状態をどのように感じていますか。（１つに○）

健康状態は、「ふつう」が最も多く 59.2%、次いで「健康」が 22.8%「健康でない」が 15.9%となっています。

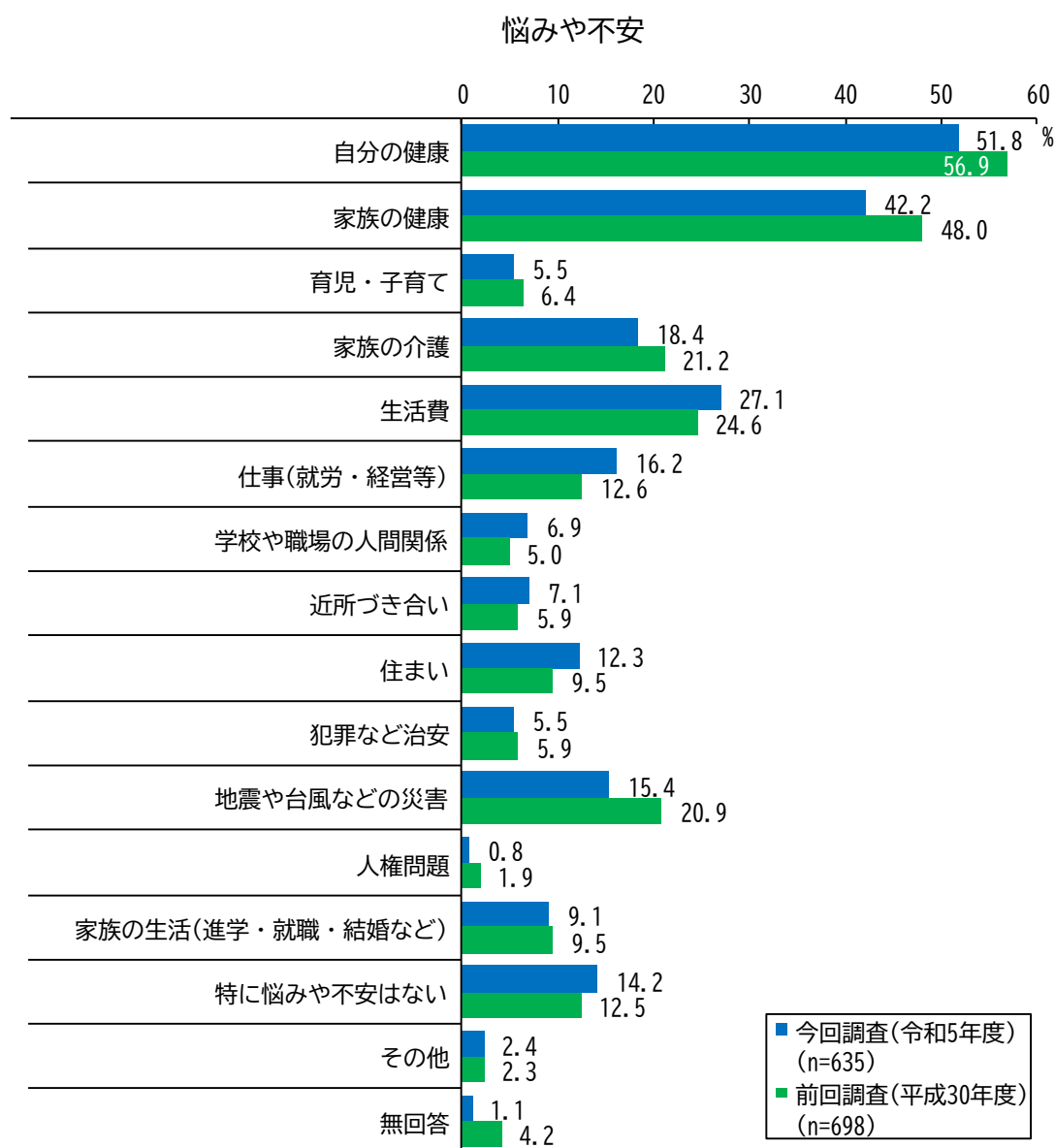
今回調査(令和 5 年度)は、前回調査(平成 30 年度)と比較すると、「健康」との回答割合が増えています。



問 15 日々の生活でどのような悩みや不安を感じていますか。(〇はいくつでも)

悩みや不安は、「自分の健康」が最も多く 51.8%、次いで「家族の健康」が 42.2%、「生活費」が 27.1%となっています。

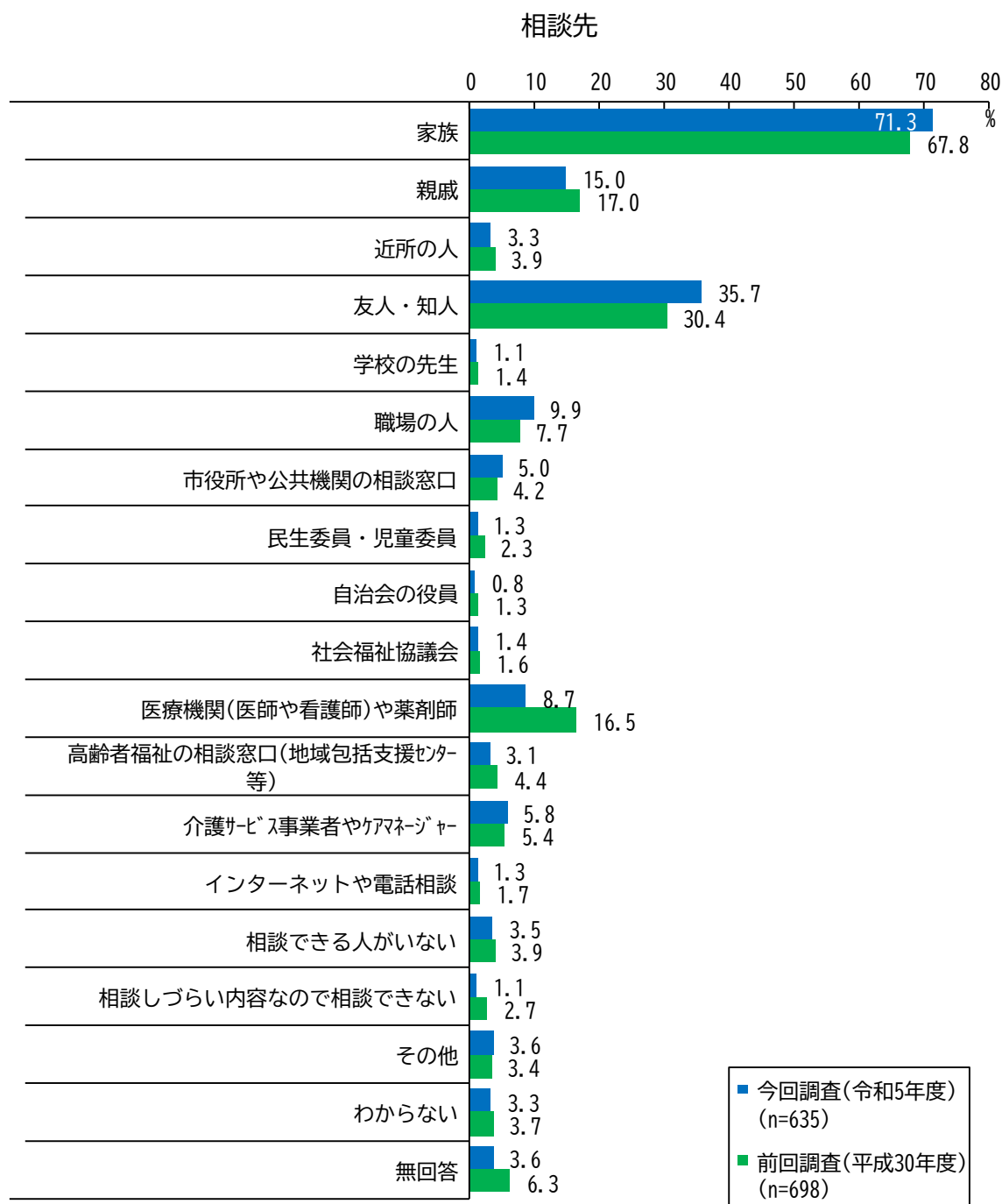
今回調査(令和 5 年度)は、前回調査(平成 30 年度)と比較すると、「生活費」、「仕事(就労・経営等)」、「学校や職場の人間関係」、「近所づき合い」、「住まい」、「その他」、「特に悩みや不安はない」の割合が増えています。



問 16 悩みや不安を、「だれに」または「どこ」に相談していますか。(〇はいくつでも)

相談先は、「家族」が最も多く 71.3%、次いで「友人・知人」が 35.7%、「親戚」が 15.0%となっています。

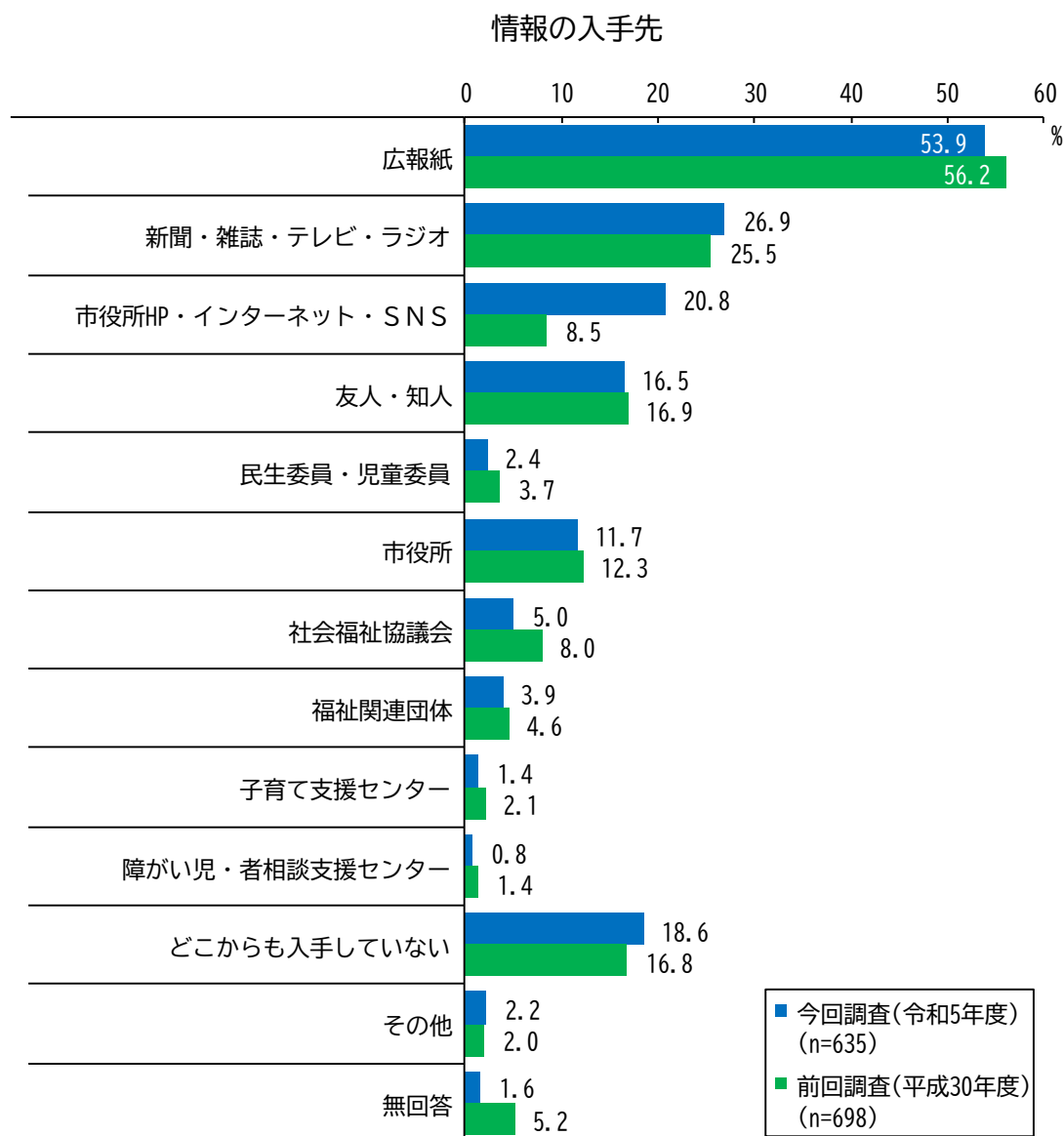
今回調査(令和 5 年度)は、前回調査(平成 30 年度)と比較すると、「家族」、「友人・知人」、「職場の人」、「市役所や公共機関の相談窓口」、「介護サービス事業者やケアマネージャー」、「その他」の割合が増えています。



問 17 福祉サービスに関する情報をどこから入手していますか。(〇はいくつでも)

情報の入手先は、「広報紙」が最も多く 53.9%、次いで「新聞・雑誌・テレビ・ラジオ」が 26.9%、「市役所 HP・インターネット・SNS」が 20.8%となっています。

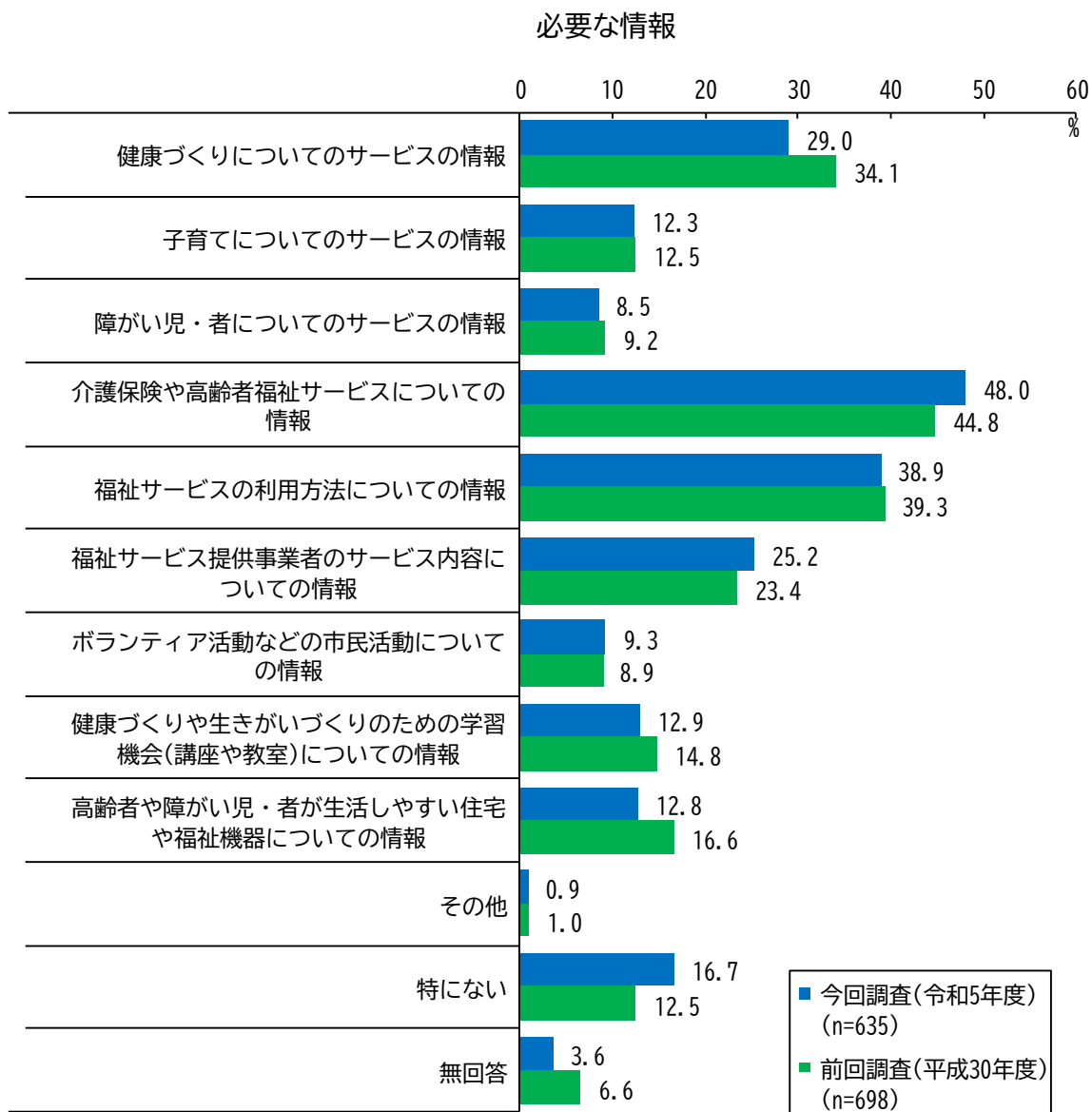
今回調査(令和 5 年度)は、前回調査(平成 30 年度)と比較すると、「新聞・雑誌・テレビ・ラジオ」、「市役所 HP・インターネット・SNS」、「どこからも入手していない」、「その他」の割合が増えています。



問 18 福祉や健康についてどのような情報が必要ですか。(〇はいくつでも)

必要な情報は、「介護保険や高齢者福祉サービスの情報」が最も多く 48.0%、次いで「福祉サービスの利用方法についての情報」が 38.9%、「健康づくりについてのサービスの情報」が 29.0%となっています。

今回調査(令和 5 年度)は、前回調査(平成 30 年度)と比較すると、「介護保険や高齢者福祉サービスの情報」、「福祉サービス提供事業者のサービス内容についての情報」、「ボランティア活動などの市民活動についての情報」、「特にない」の割合が増えています。

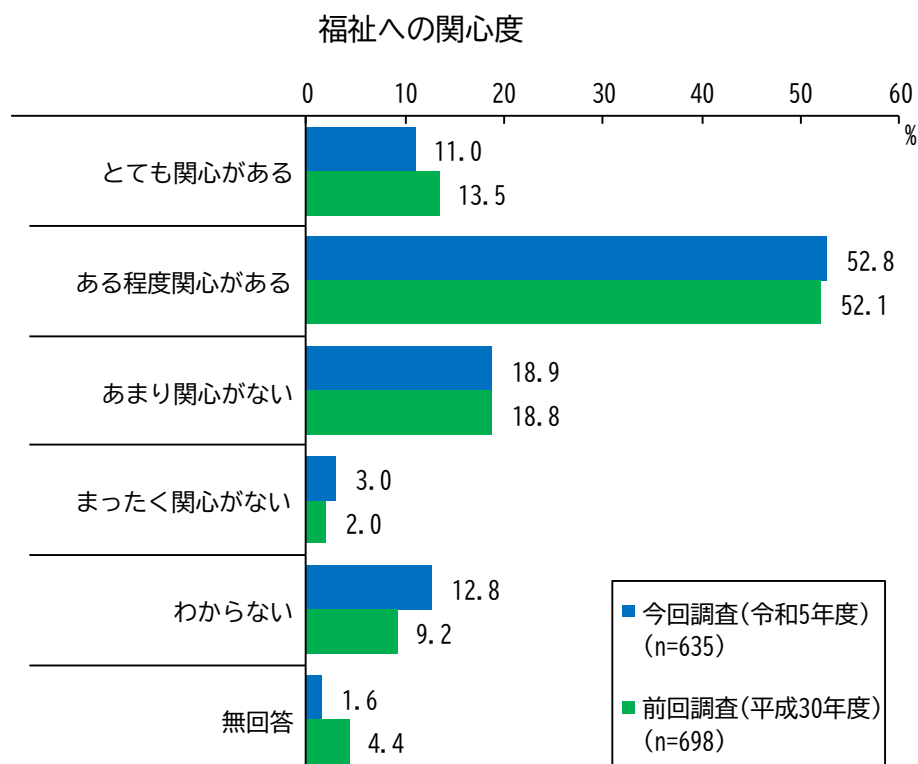


（６）地域における福祉全般について

問 19 あなたは、「福祉」について関心がありますか。（１つに○）

福祉への関心度は、「ある程度関心がある」が最も多く 52.8%、次いで「あまり関心がない」が 18.9%、「わからない」が 12.8%となっています。

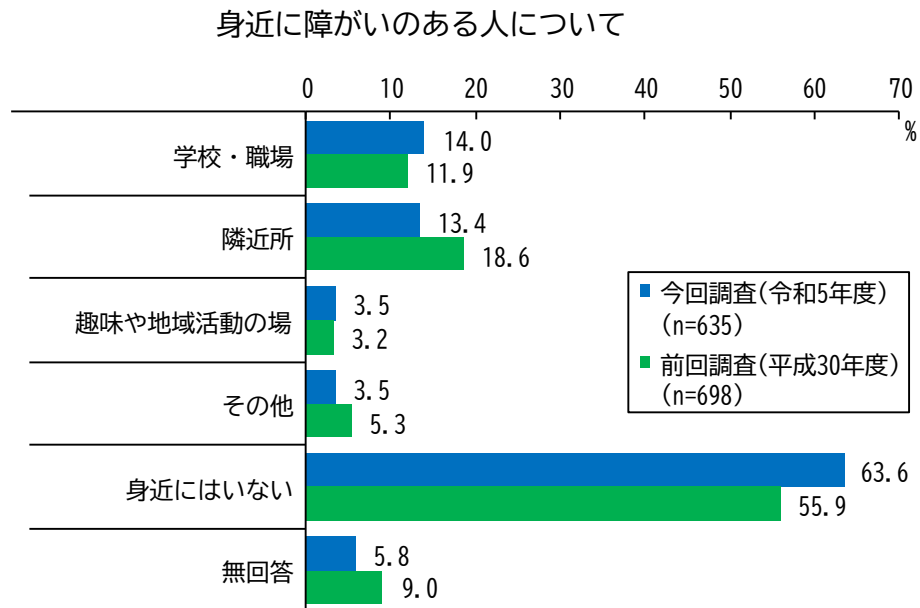
関心がある（「とても関心がある」＋「ある程度関心がある」）の割合は、前回調査（平成 30 年度）は 65.7%、今回調査（令和 5 年度）は 63.8%となっており、その割合は減っています。



問 20 ご家族以外であなたの身近に障がいのある人がいますか。または、これまでいたことがありますか。(〇はいくつでも)

身近に障がいのある人については、「身近にはいない」が最も多く 63.6%、次いで「学校・職場」が 14.0%、「隣近所」が 13.4%となっています。

今回調査(令和 5 年度)は、前回調査(平成 30 年度)と比較すると、「学校・職場」、「趣味や地域活動の場」、「身近にはいない」の割合が増えています。

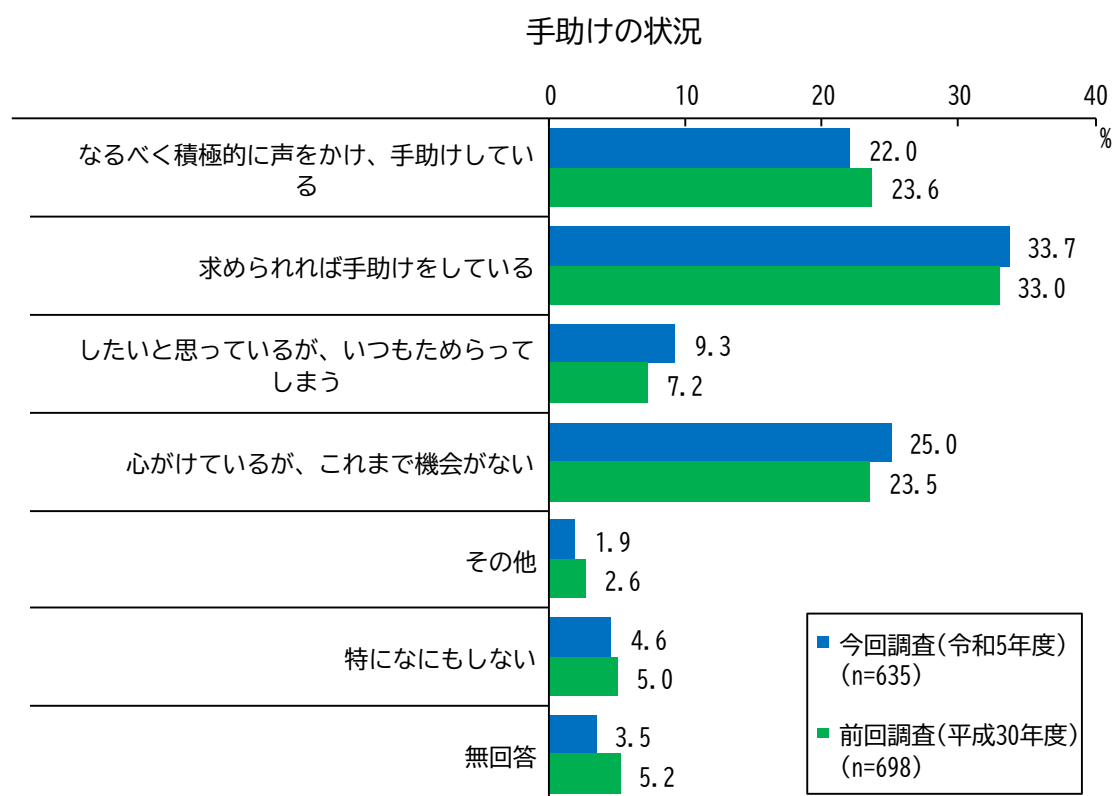


問 21 あなたは、何か困っている高齢者や障がい者を見かけた時、手助けをしますか。

(1つに○)

手助けの状況は、「求められれば手助けをしている」が最も多く 33.7%、次いで「心がけているが、これまで機会がない」が 25.0%、「なるべく積極的に声をかけ、手助けしている」が 22.0%となっています。

今回調査(令和5年)は、前回調査(平成30年度)と比較すると、「求められれば手助けをしている」、「したいと思っているが、いつもためらってしまう」、「心がけているが、これまで機会がない」の割合が増えています。

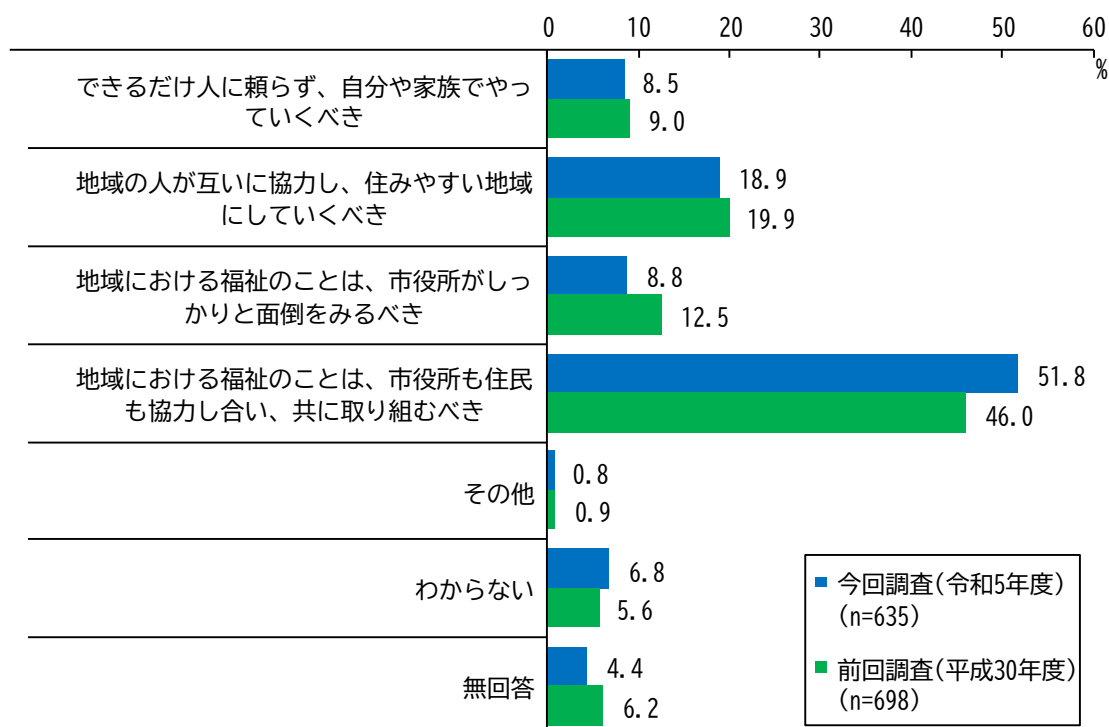


問 22 これからの地域における福祉について、あなたはどのように考えますか。(1つに○)

これからの地域における福祉については、「地域における福祉のことは、市役所も住民も協力し合い、共に取り組むべき」が最も多く 51.8%、次いで「地域の人が互いに協力し、住みやすい地域にしていけるべき」が 18.9%、「地域における福祉のことは、市役所がしっかりと面倒をみるべき」が 8.8%となっています。

今回調査(令和5年度)は、前回調査(平成30年度)と比較すると、「地域における福祉のことは、市役所も住民も協力し合い、共に取り組むべき」、「わからない」の割合が増えています。

これからの地域における福祉について

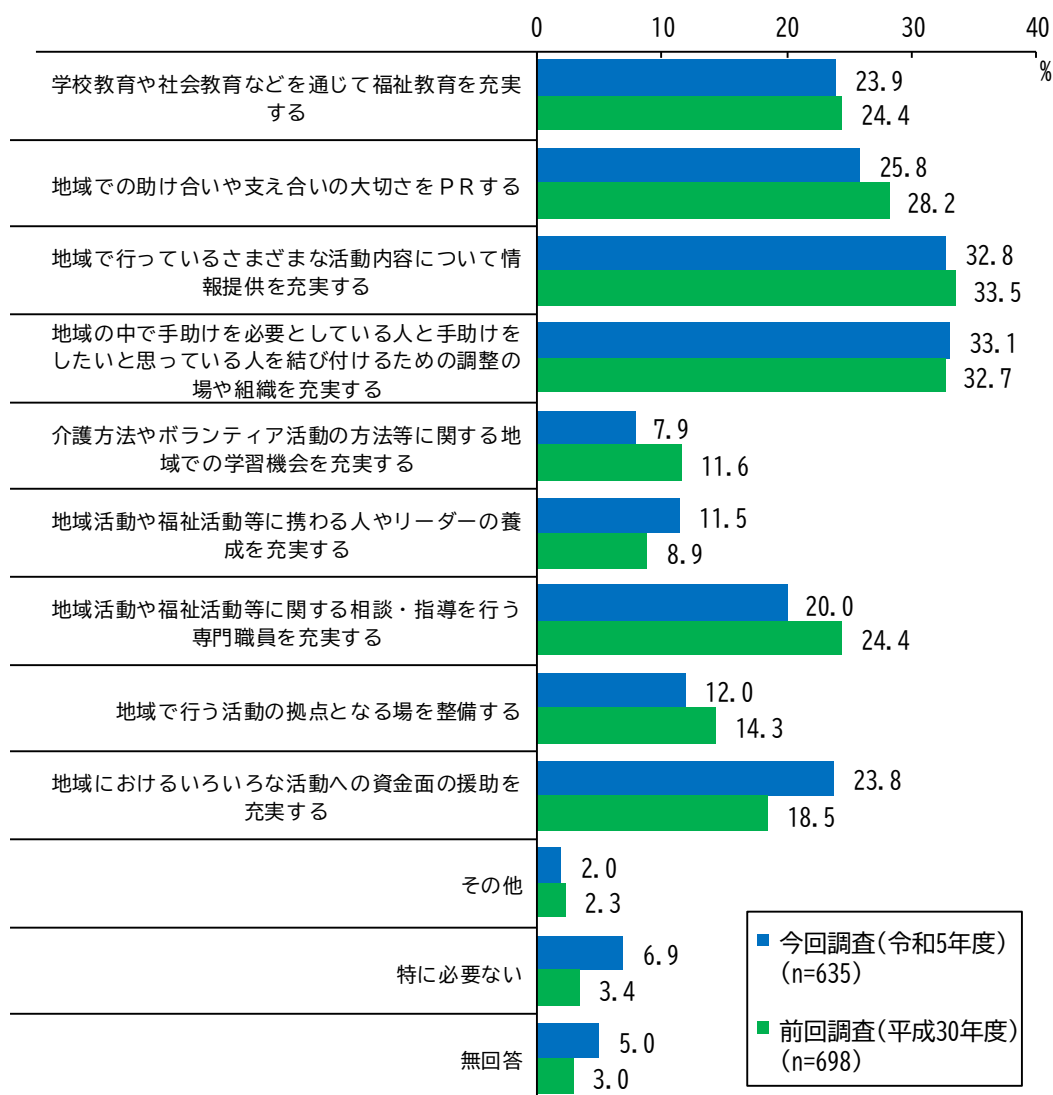


問 23 地域での助け合いや支え合いの活動の輪を広げるために、今後、特にどのようなことが重要だと思いますか。(〇は3つまで)

今後、特に重要なことは、「地域の中で手助けを必要としている人と手助けをしたいと思っている人を結び付けるための調整の場や組織を充実する」が最も多く 33.1%、次いで「地域で行っているさまざまな活動内容について情報提供を充実する」が 32.8%、「地域への助け合いや支え合いの大切さをPRする」が 25.8%となっています。

今回調査(令和5年度)は、前回調査(平成30年度)と比較すると、「地域の中で手助けを必要としている人と手助けをしたいと思っている人を結び付けるための調整の場や組織を充実する」、「地域活動や福祉活動等に携わる人やリーダーの養成を充実する」、「地域におけるいろいろな活動への資金面の援助を充実する」、「特に必要ない」の割合が増えています。

今後、特に重要なこと

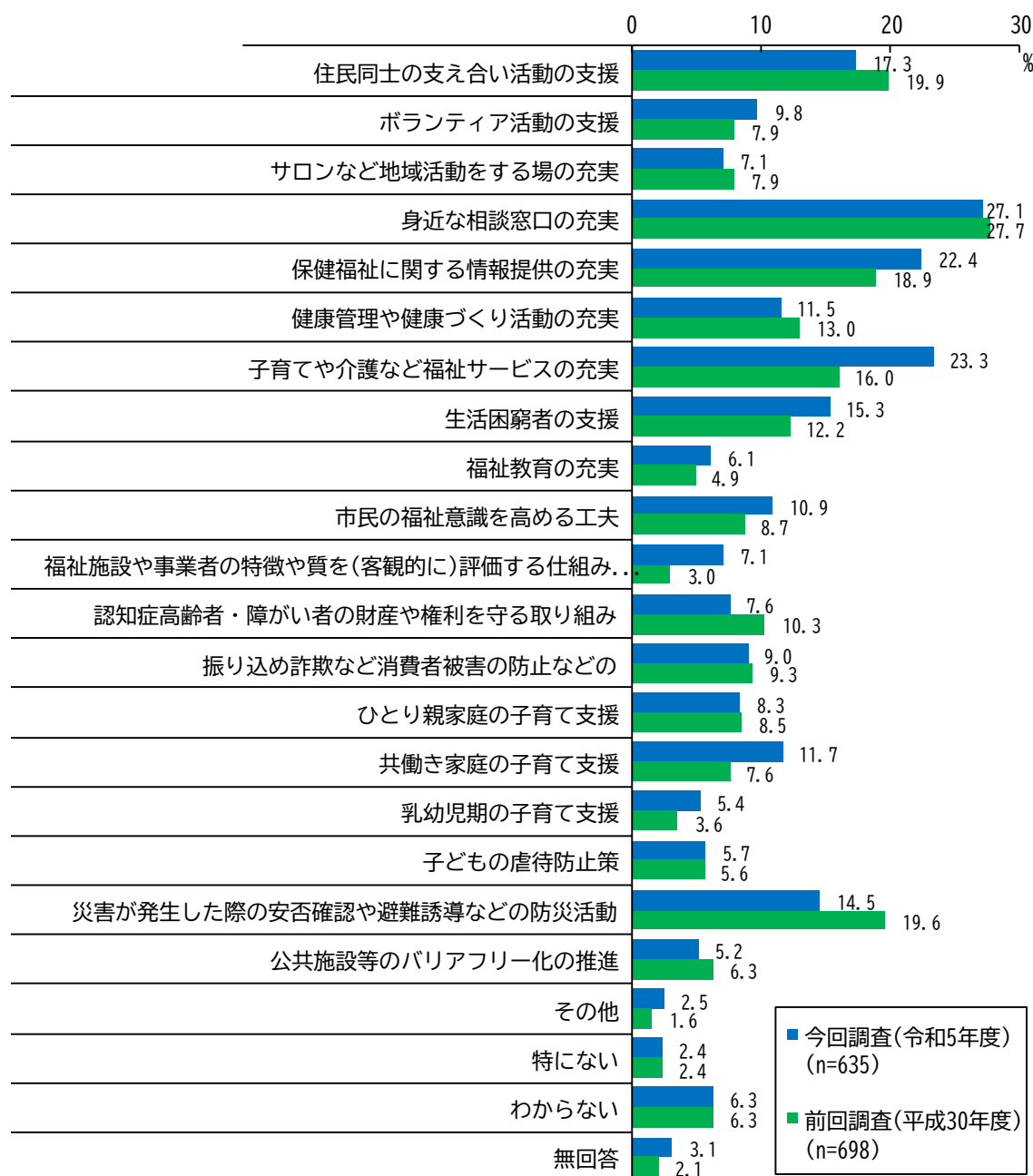


問 24 今後、地域福祉の充実のために市が積極的に取り組むべきことは何だと思いますか。
(〇は3つまで)

今後、市が積極的に取り組むべきことは、「身近な相談窓口の充実」が最も多く 27.1%、次いで「子育てや介護など福祉サービスの充実」が 23.3%、「保健福祉に関する情報提供の充実」が 22.4% となっています。

今回調査(令和5年度)は、前回調査(平成30年度)と比較すると、「ボランティア活動の支援」、「保健福祉に関する情報提供の充実」、「子育てや介護など福祉サービスの充実」、「生活困窮者の支援」、「福祉教育の充実」、「市民の福祉意識を高める工夫」、「福祉施設や事業の特徴や質を(客観的に)評価する仕組みの充実」、「共働き家庭の子育て支援」、「乳幼児期の子育て支援」、「子どもの虐待防止策」、「その他」の割合が増えています。

今後、市が積極的に取り組むべきこと

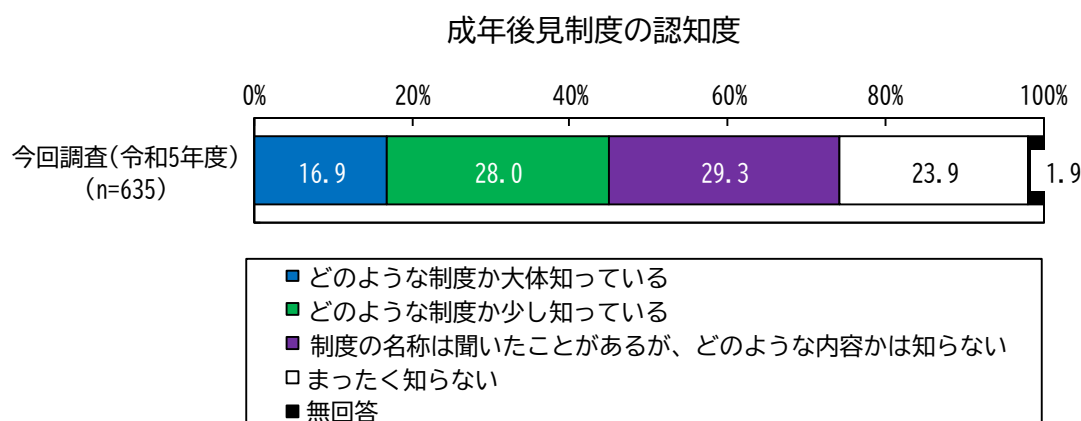


(7) 権利擁護に関する制度について

※問 25～問 28 は今回調査(令和 5 年度)において新規設問となります(前回調査(平成 30 年度)ではこれらの設問はありません)。

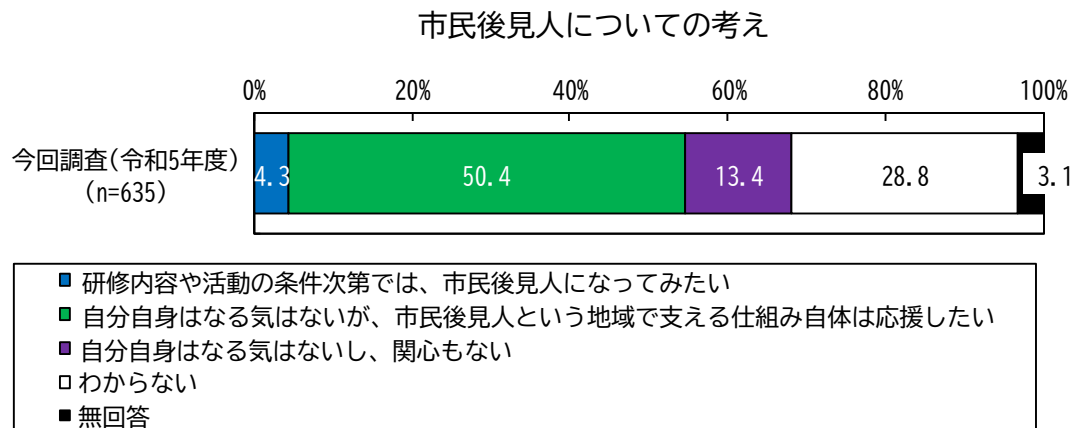
問 25 認知症や障がいなどの理由で、判断能力が不十分な人の権利を守る「成年後見制度」についておたずねします。あなたは、成年後見制度を知っていますか。(1 つに○)

成年後見制度の認知度は、「制度の名称は聞いたことがあるが、どのような内容かは知らない」が最も多く 29.3%、次いで「どのような制度か少し知っている」が 28.0%、「まったく知らない」が 23.9%となっています。



問 26 厚生労働省は、一定の研修を修了した一般の方に成年後見人として活動してもらう「市民後見人」を育成する方針を示しています。この市民後見人について、あなたの考えに最も近いものをお答えください。（1つに○）

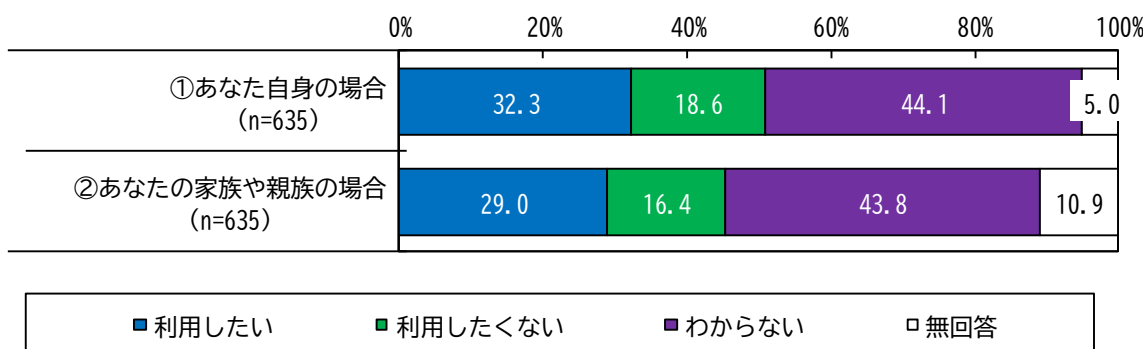
市民後見人についての考えは、「自分自身はなる気はないが、市民後見人という地域で支える仕組み自体は応援したい」が最も多く 50.4%、次いで「わからない」が 28.8%、「自分自身はなる気はないし、関心もない」が 13.4%となっています。



問 27 あなた自身やあなたの家族・親族の判断が十分にできなくなり、生活に支障が生じた場合に、成年後見制度を利用したいと思いますか。①あなた自身の場合、②あなたの家族や親族の場合、それぞれについてお答えください。（それぞれ1つに○）

成年後見制度の利用意向は、①あなた自身の場合は、「わからない」が最も多く 44.1%、次いで「利用したい」が 32.3%、「利用したくない」が 18.6%となっています。②あなたの家族や親族の場合は、「わからない」が最も多く 43.8%、次いで「利用したい」が 29.0%、「利用したくない」が 16.4%となっています。

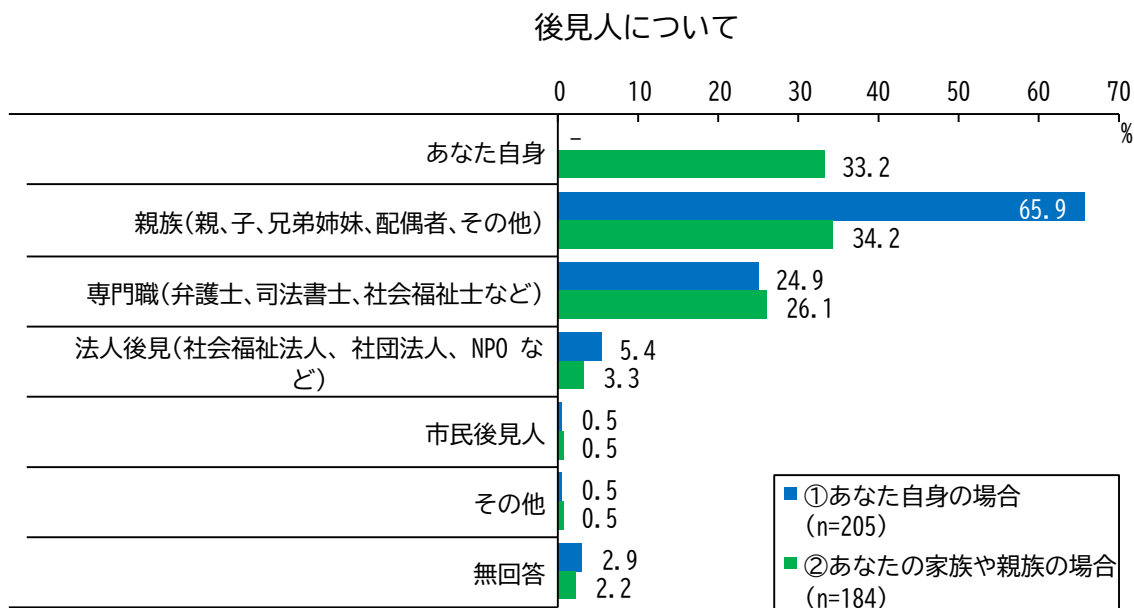
成年後見制度の利用意向



問 27 問 27 で「1 利用したい」を選んだ人におたずねします。

問 27-1 後見人には誰になってもらいたいですか。(①・②それぞれに1つに○)

後見人については、①あなた自身の場合は、「親族(親、子、兄弟姉妹、配偶者、その他)」が最も多く 65.9%、次いで「専門職(弁護士、司法書士、社会福祉士など)」が 24.9%、「法人後見(社会福祉法人、社団法人、NPO など)」が 5.4%となっています。②あなたの家族や親族の場合は、「親族(親、子、兄弟姉妹、配偶者、その他)」が最も多く 34.2%、次いで「(あなた) 自身」が 33.2%、「専門職(弁護士、司法書士、社会福祉士など)」が 26.1%となっています。

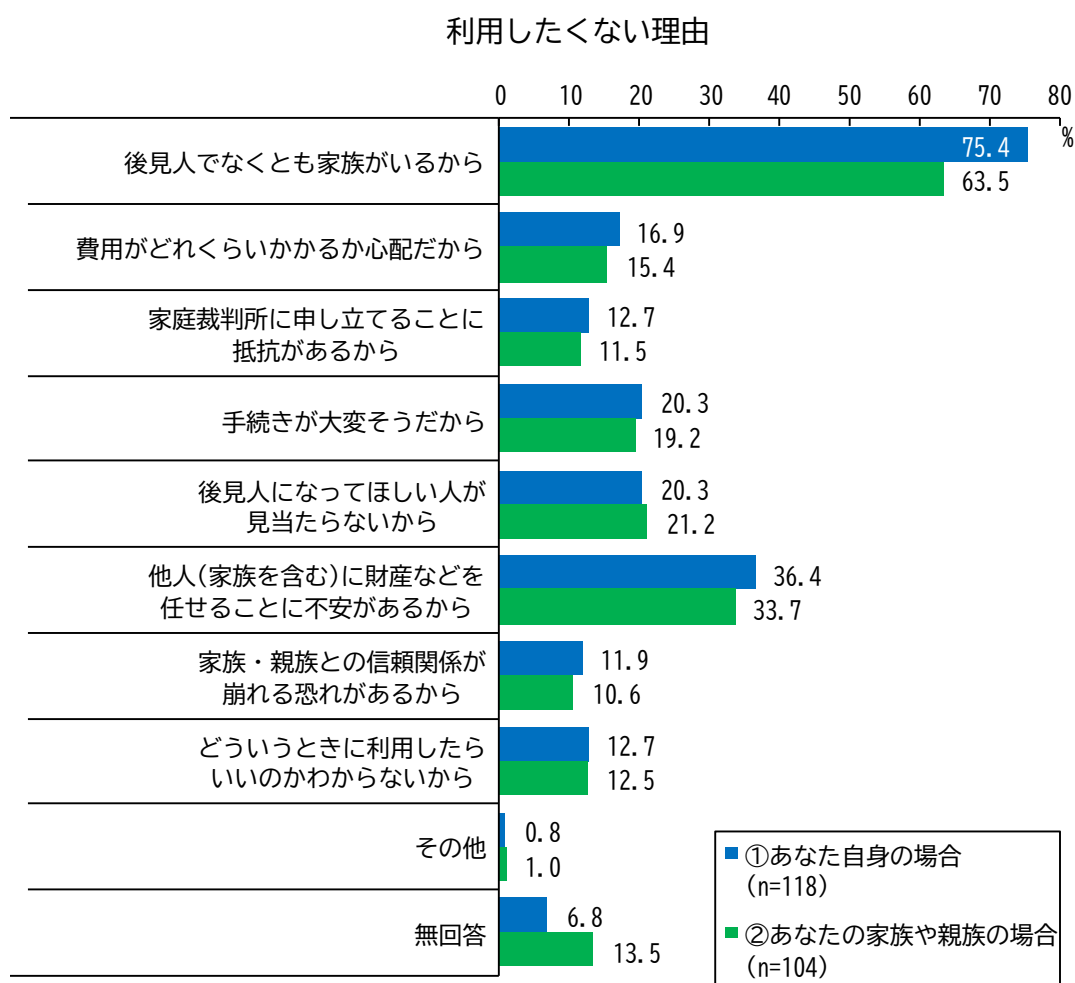


問 27 で「2 利用したくない」を選んだ人におたずねします。

問 27-2「成年後見制度」を利用したくない理由は何ですか。

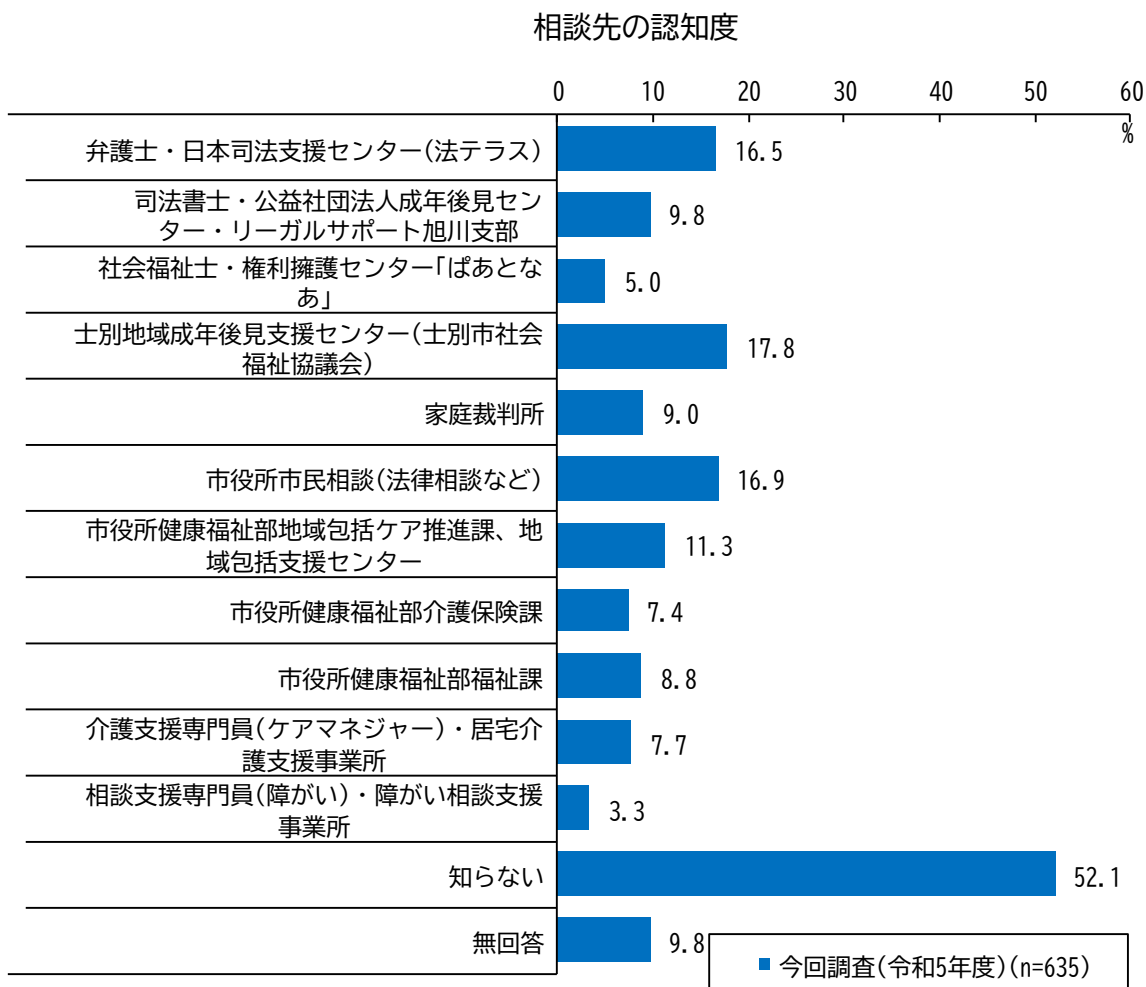
(①・②それぞれに、あてはまるものすべてに○)

利用したくない理由は、①あなた自身の場合は、「後見人でなくとも家族がいるから」が最も多く 75.4%、次いで「他人(家族を含む)に財産などを任せることに不安があるから」が 36.4%、「手続きが大変そうだから」及び「後見人になってほしい人を見当たらないから」がいずれも 20.3%となっています。②あなたの家族や親族の場合は、「後見人でなくとも家族がいるから」が最も多く 63.5%、次いで「他人(家族を含む)に財産などを任せることに不安があるから」が 33.7%、「後見人になってほしい人を見当たらないから」が 21.2%となっています。



問 28 成年後見制度について相談できるところをご存じですか。(あてはまるものすべてに○)

相談先の認知度は、「知らない」が最も多く 52.1%、次いで「士別地域成年後見支援センター(士別市社会福祉協議会)」が 17.8%、「市役所市民相談(法律相談など)」が 16.9%となっています。

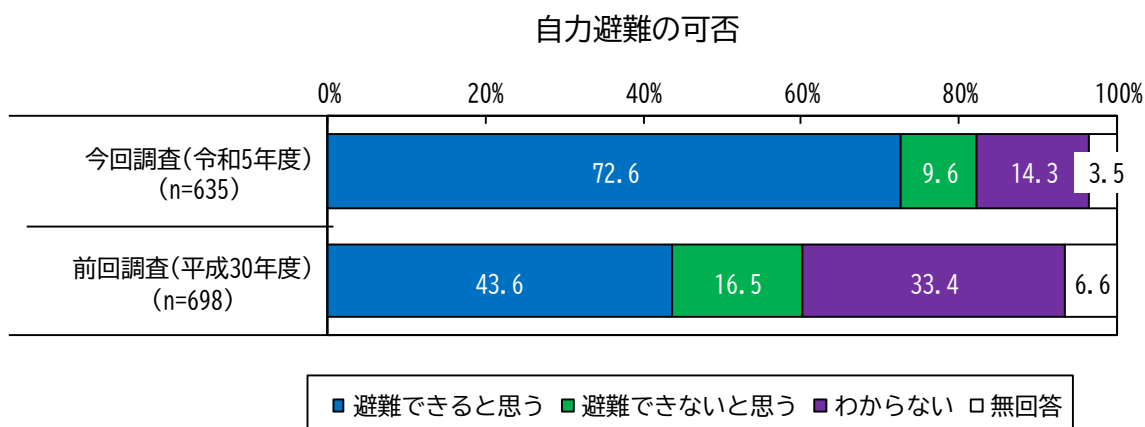


（８）災害時の助け合いについて

問 29 あなたは、災害などの緊急事態が発生した場合、ご自分で避難できますか。（１つに○）

自力避難の可否は、「避難できると思う」が最も多く 72.6%、次いで「わからない」が 14.3%、「避難できないと思う」が 9.6%となっています。

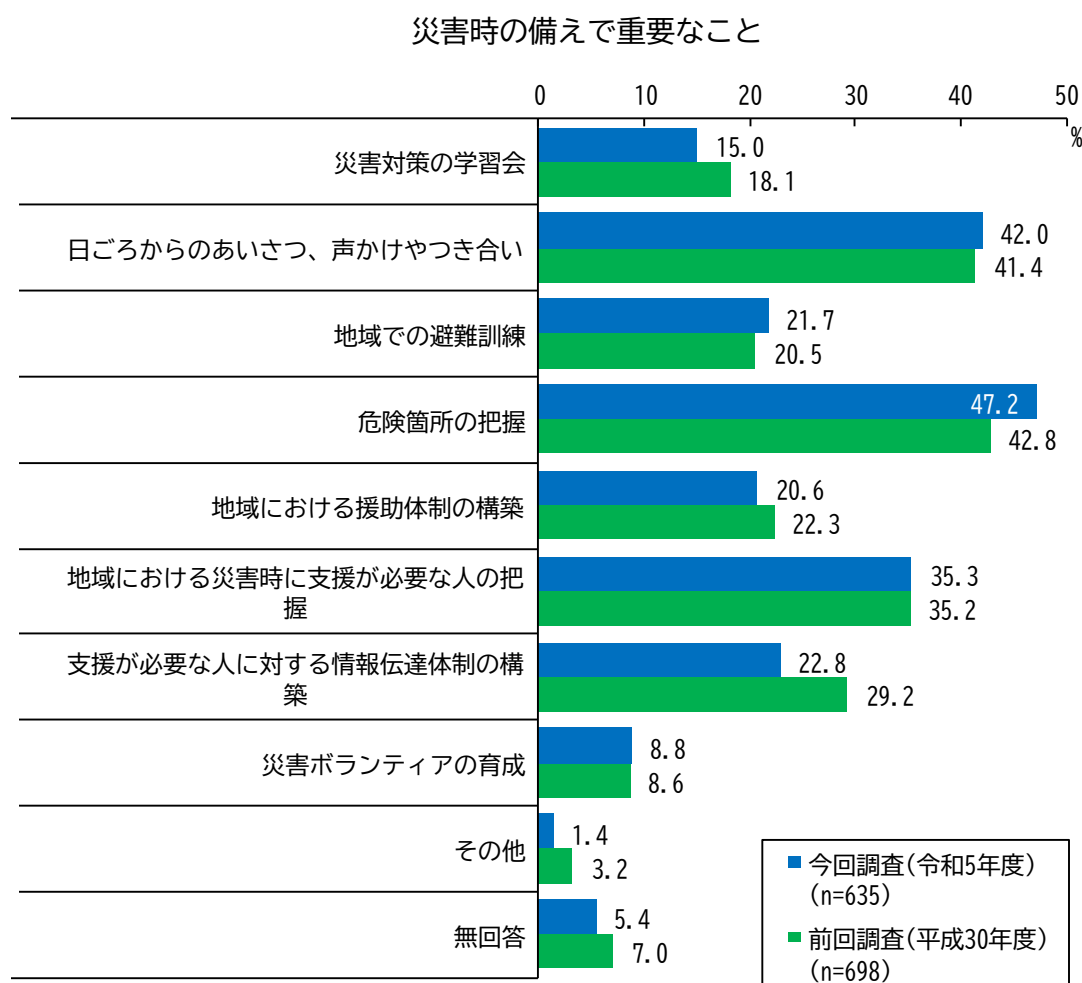
今回調査(令和 5 年度)は、前回調査(平成 30 年度)と比較すると、「避難できると思う」の割合が増えています。



問 30 地震などの災害時における地域の助け合いは、非常に重要なことです。あなたの住む地域における災害時の備えとして、どのようなことが重要だと思いますか。(〇は3つまで)

災害時の備えで重要なことは、「危険箇所の把握」が最も多く 47.2%、次いで「日ごろからのあいさつ、声かけやつき合い」が 42.0%、「地域における災害時に支援が必要な人の把握」が 35.3% となっています。

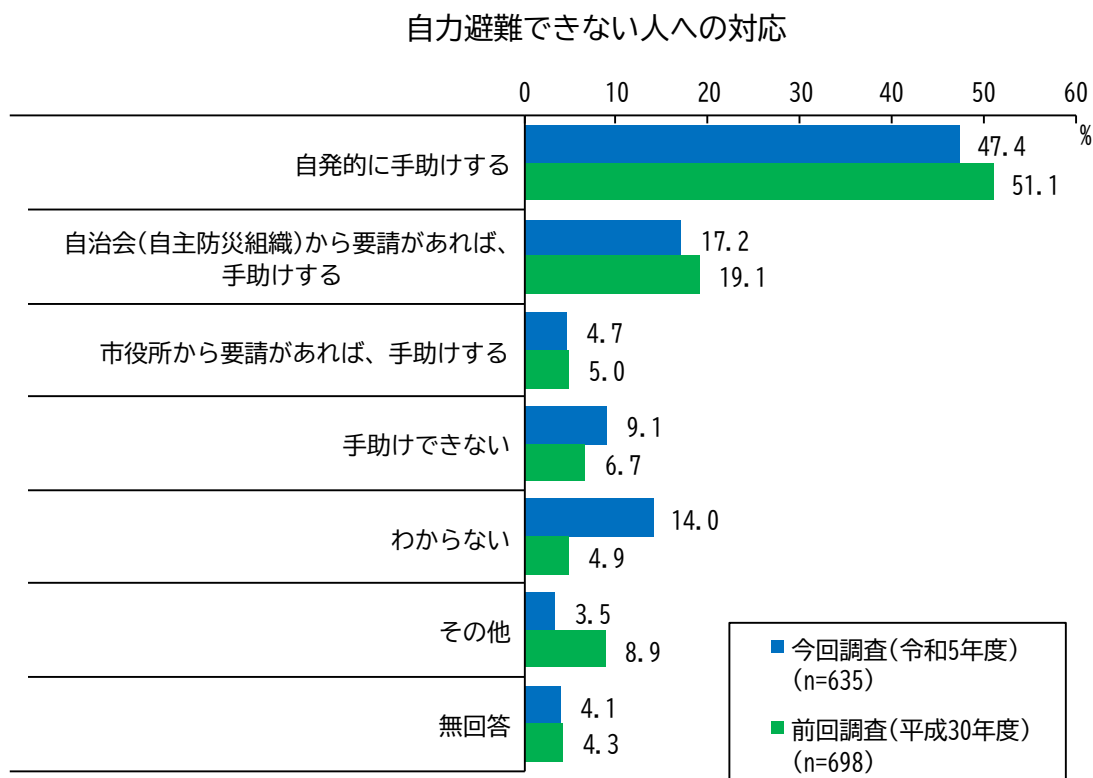
今回調査(令和 5 年度)は、前回調査(平成 30 年度)と比較すると、「日ごろからのあいさつ、声かけやつき合い」、「地域での避難訓練」、「危険箇所の把握」、「地域における災害時に支援が必要な人の把握」、「災害ボランティアの育成」の割合が増えています。



問 31 あなたは、災害時に、高齢者や障がい者、妊婦、乳幼児など隣近所に自力で避難できない人がいたとき、どう対応しますか。現時点のお考えとしてお答えください。（1つに○）

自力避難できない人への対応は、「自発的に手助けする」が最も多く 47.4%、次いで「自治会(自主防災組織)から要請があれば、手助けする」が 17.2%、「わからない」が 14.0%となっています。

今回調査(令和 5 年度)は、前回調査(平成 30 年度)と比較すると、「手助けできない」、「わからない」の割合が増えています。

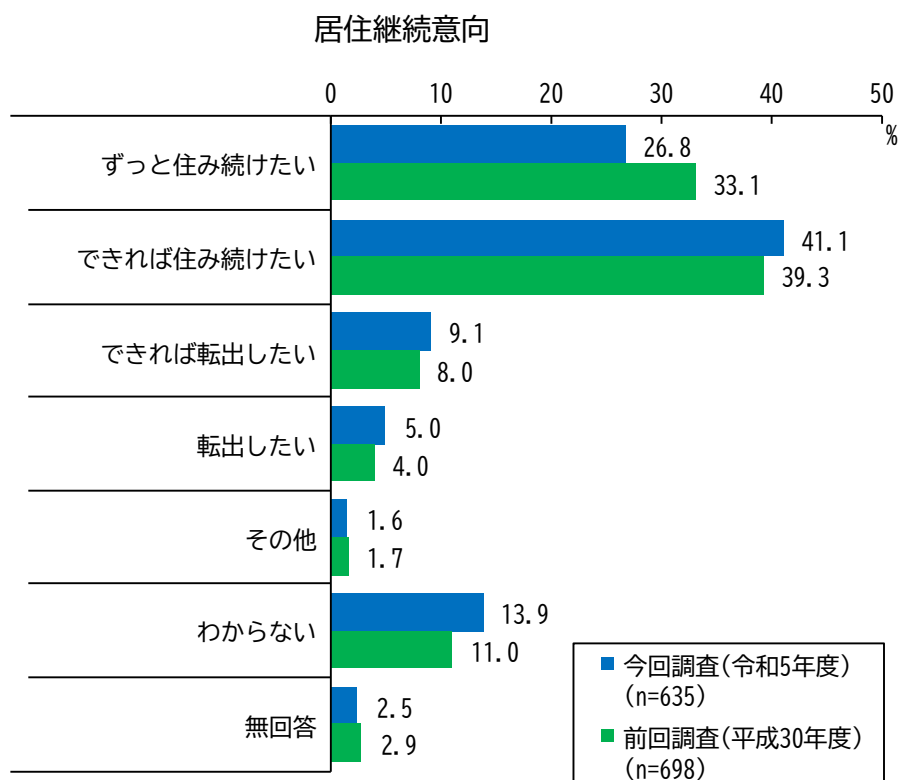


(9) 士別市での居住継続意向について

問 32 これからも士別市に住み続けたいと思いますか。(1 つに○)

居住継続意向は、「できれば住み続けたい」が最も多く 41.1%、次いで「ずっと住み続けたい」が 26.8%、「わからない」が 13.9%となっています。

住み続けたい(「ずっと住み続けたい」「できれば住み続けたい」)の割合は、前回調査(平成 30 年度)は 72.4%、今回調査(令和 5 年度)は 67.9%となっており、その割合は減少しています。



資料2 策定経過

年月日	会議等	主な内容
令和5年8月23日	第5期士別市地域福祉計画策定庁内検討会議	・アンケート調査について ・スケジュールについて
〃 10月4日	〃 懇談会	
〃 11月10日	〃 庁内検討会議	
〃 11月20日	〃 懇談会	
令和6年7月26日	第5期士別市地域福祉計画策定庁内検討会議	・計画期間について ・基本理念について他
〃 8月20日	〃 懇談会	
〃 9月10日	〃 庁内検討会議	・計画（案）について ・パブリックコメントについて
〃 9月20日	庁議	
〃 9月25日	第5期士別市地域福祉計画策定懇談会	
〃 10月1日 ～10月31日	パブリックコメント	・意見なし
〃 10月21日	士別市保健医療福祉対策協議会	・計画（案）について
〃 11月29日	令和6年第4回士別市議会定例会	・計画（案）審議
〃 12月13日	〃	・計画（案）可決